

SDGs経営実践のための

SDGs社会的インパクト・マネジメント ガイド

事例編



私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県

- 1 SDGsインパクト・マネジメントガイドは、【導入編】 【実践編】 【事例編】 の3種類をパッケージとして公開しています。
- 2 本ガイドは【事例編】です。SDGs経営の考え方について知りたい方は【導入編】を、社会的インパクト・マネジメントの実践方法を知りたい方は【実践編】をご覧ください。



導入編

なぜ企業がSDGs経営に取り組むことが良いのか、その手法としての社会的インパクト・マネジメントを紹介



実践編

SDGs×社会的インパクト・マネジメントを進めていく方法について、具体的なプロセスを解説



事例編

SDGs×社会的インパクト・マネジメントに取り組んだ3社の実証事業についてレポートを紹介

- 1 SDGs達成への貢献に向けた
Fujisawa サステイナブル・スマートタウンの取り組み ～スマート&エコな暮らし～
- 2 Fujisawa サステイナブル・スマートタウンにおけるコミュニティケアの普及の普及
- 3 インターネットインフィニティー社のビジネスを通じた社会的価値の創出
- 4 リエゾンワークス社のビジネスを通じた社会的価値の創出

SDGs達成への貢献に向けた
Fujisawaサステイナブル・スマートタウンの取組み
～スマート&エコな暮らし～

本レポートは、Fujisawaサステイナブル・スマートタウンの特徴的な取り組みであるエネルギーの自産・自消について、社会的インパクト・マネジメントの手法を用い、特にSDGs達成貢献の観点から、社会的価値創出のシナリオ・現状・課題を分析し、今後の価値創出力向上のための施策を検討したものです。

目次

本編

サマリー

1. 対象事業の概要
2. 社会的インパクトマネジメント実施の目的
3. SDGs達成への貢献シナリオ
4. 価値創出力を高めるために ～社会的インパクトマネジメントから得られた教訓～

添付

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果

進化し続けるエコ&スマートな街を目指して

機器・設備の導入

Fujisawaサステイナブル・スマートタウン(以下Fujisawa SST)は2014年4月の街びらき当初から、太陽光パネルを街全体に設置し、全戸建て住宅に省エネ・創エネ機器を導入し**使用エネルギー量、二酸化炭素(CO2)排出量の削減**を行っている。

意識や行動

現在の機器がいつか製品としての寿命を迎え、こども世代がおとなになってからも、Fujisawa SSTが将来にわたってエコで快適な暮らしを実現し続ける街として発展していくためには、**そこに暮らす人たちの環境意識や街への想いに裏付けされた行動が鍵**となる。

成果の見える化

サマリー (詳細p6・7)

- エネルギーマネジメントの技術により、エネルギー消費量はマイナス(余剰分は売電されている)となっている。
- CO2排出量は大幅に全国平均を下回っている。

社会的インパクト・マネジメントの実施

サマリー (詳細p8以降)

- 住民の方々は**環境意識が高く、また街の将来にわたる発展を願っている**。
- その思いを維持し、また行動につなげるために、Fujisawa SSTでは既に戸建て住宅毎の使用エネルギーの見える化や、住民参画による街づくりを行っている。
- 現在街で展開されている様々な住民向けサービスや、住民による活動を工夫したり、お互いを連動させることで、子ども世代を含めた**更なる環境意識の向上や街のための行動を引きだしていける可能性が示唆された**。

関連するSDGs

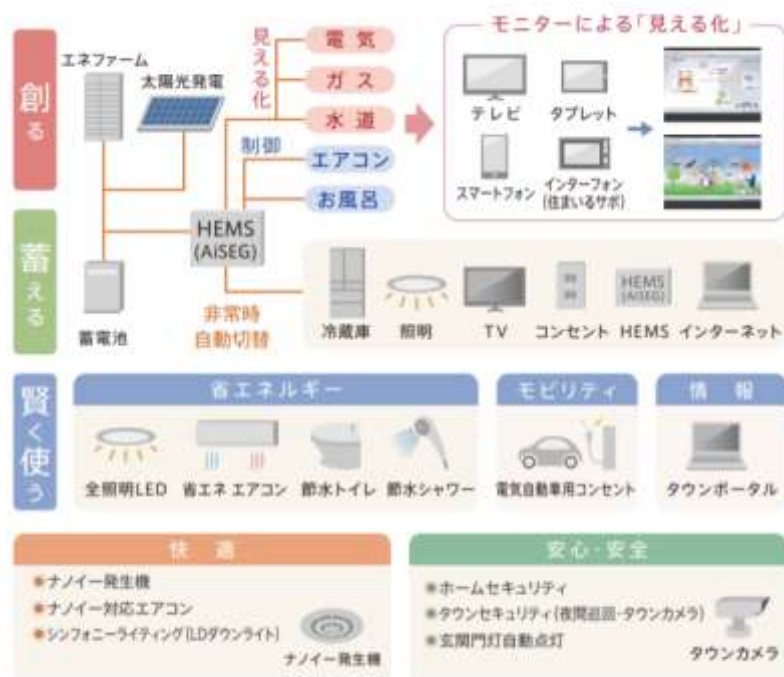


1 対象事業の概要

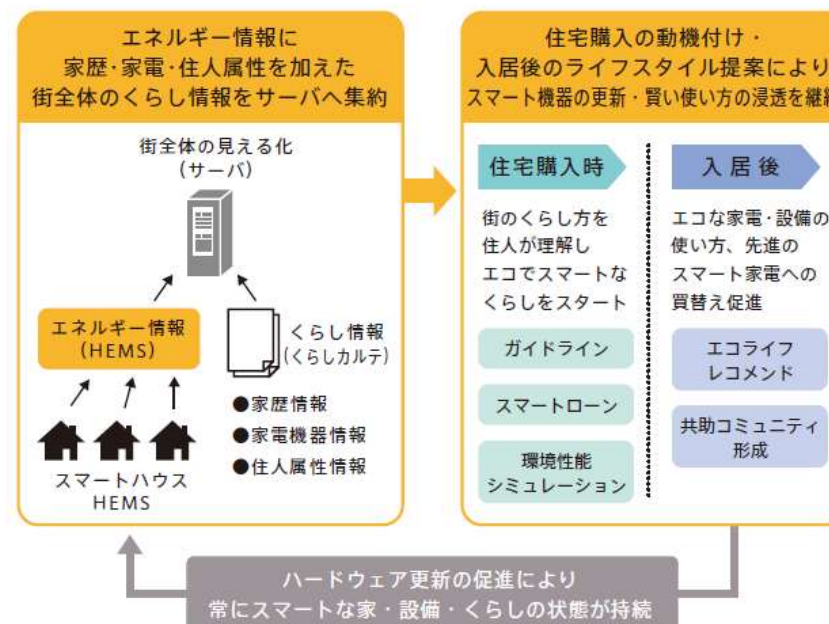
組織名/事業名	Fujisawa SST協議会/Fujisawaサステイナブル・スマートタウン(Fujisawa SST)におけるエコ&スマートな暮らしの実現
取組概要	Fujisawa SSTでは戸建住宅、施設、公共エリアに太陽光パネルや蓄電池、省エネ設備を導入し、街全体で二酸化炭素(CO2)排出量の大幅な削減を目指すとともに、街で使うエネルギーの多くを再生可能エネルギーでまかなう取り組みを実践している。住宅におけるエネルギー活用が効率的に行われるように「自立共生型エネルギー・マネジメント」概念の導入し、エネルギー使用量の情報提供やガイドラインの履行のモニタリングが行われている。
事業が取り組む社会的・環境的課題	日本国内では家庭部門、業務部門とも民生部門からの二酸化炭素排出量の伸びが増加し続けている。個人の取り組みでは限界があるなか、エネルギーマネジメントの技術と行動変容が起きやすくする工夫により、エネルギー消費を抑えるしくみが求められている。

Fujisawa SSTのエネルギーマネジメントのしくみ

戸建て住宅のエネルギーマネジメントの設備



エコ&スマートな暮らしを促進する働きかけ



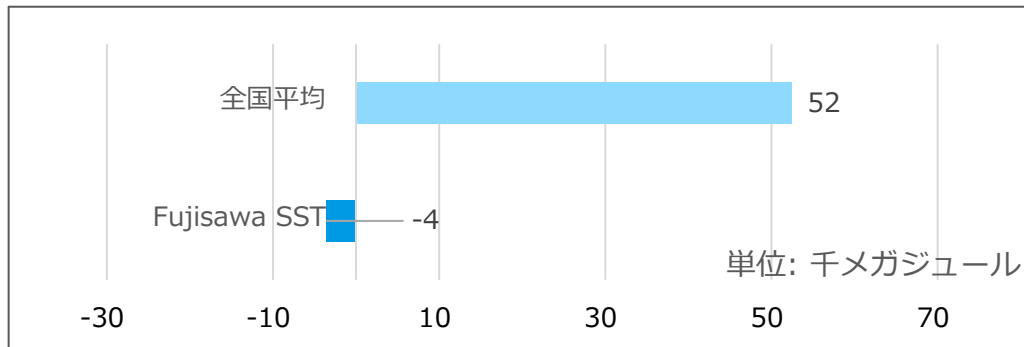
1 対象事業の概要 (続き)

Fujisawa SSTの戸建て住宅 エネルギー消費量及びCO2排出量 全国比較

全国比較: 年間エネルギー消費量(2018年年度)

- エネルギー管理の技術により、エネルギー消費量はマイナス(余剰分は売電されている)

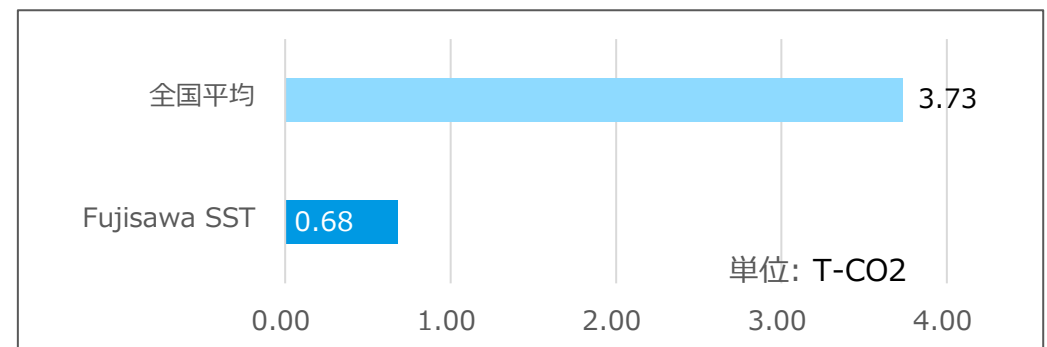
比較対象: 資源エネルギー庁「平成30年度 総合エネルギー統計」



全国比較: 年間CO2排出量(2018年年度)

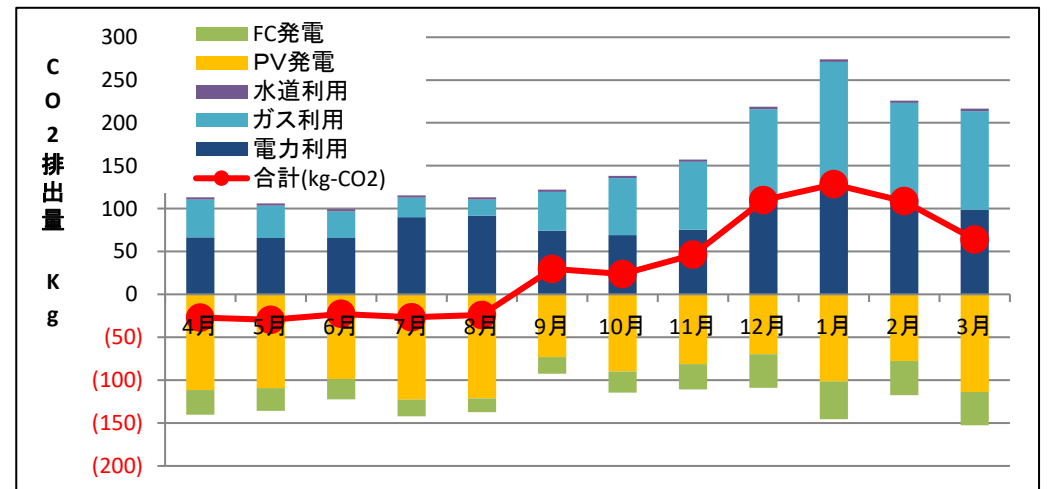
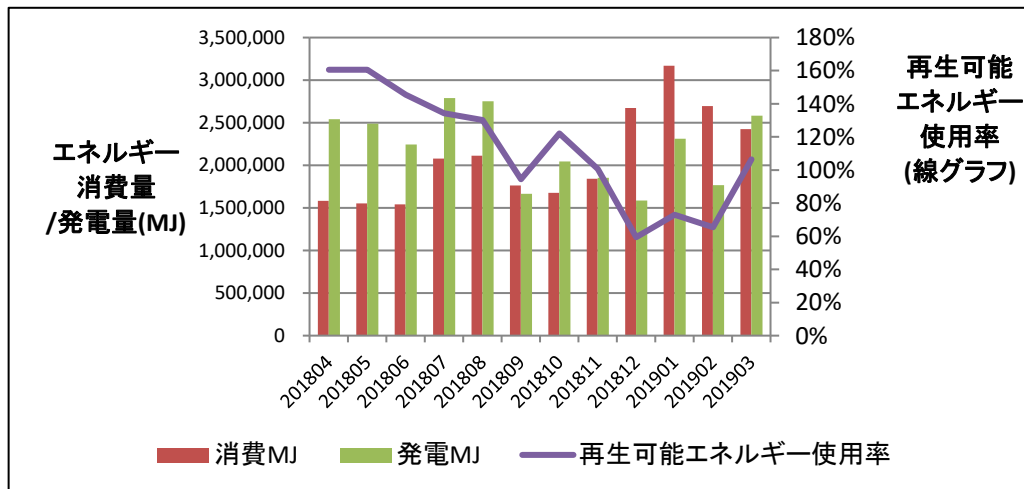
- CO2排出量は大幅に全国平均を下回る

比較対象: 環境省「平成30年 家庭部門のCO2排出実態統計調査 (確報値)」

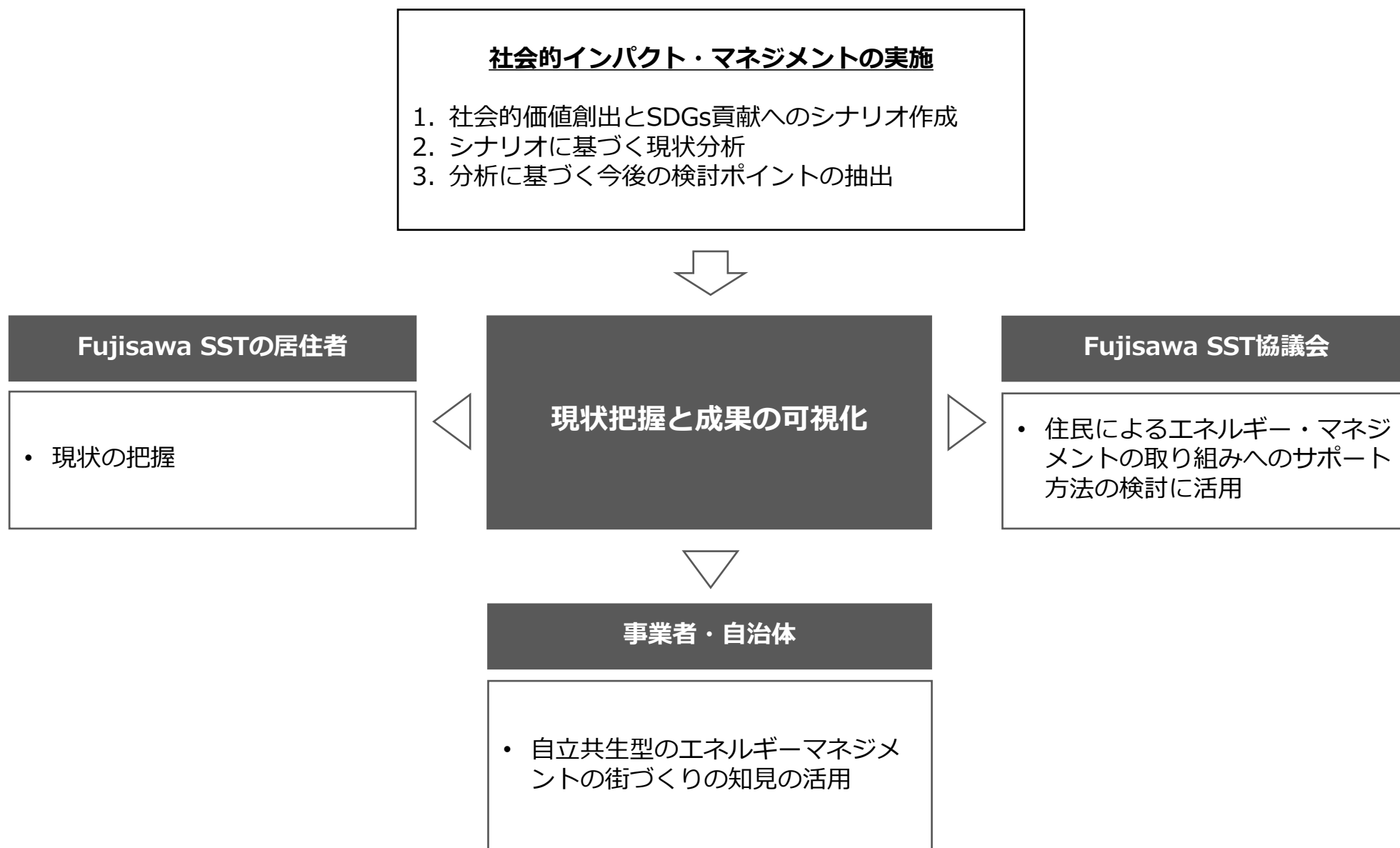


Fujisawa SSTの戸建て住宅 エネルギー消費量及びCO2排出量の月次推移(2018年度)

- 冬期は使用エネルギーやCO2排出量が増えるが、春から夏にかけて発電量が消費量を上回り、相当のCO2排出量が相殺される。



2 社会的インパクト・マネジメント実施の目的



3 SDGs達成貢献へのシナリオ

取組目標

エコ＆スマートな暮らしに対する住民の理解と行動に基づき、Fujisawa SST内の住宅及び施設のエネルギー関連設備のメンテナンス・アップグレードされ、街のエネルギーの自給自足のしくみが維持・発展する。

施設・設備の現状

戸建て・商業施設とも省・創・蓄エネを実現するハードが実稼働している

- ・ 太陽光発電システムの導入
- ・ 省エネルギーシステムの導入
- ・ 蓄エネルギーシステムの導入

活動・介入

- 0101 各世帯のエネルギーの見える化とエコなライフスタイルの提案
- 0102 エコ・イベントの開催
- 0103 防災訓練におけるエネルギー設備の理解促進
- 0201 ガイドラインの策定と改定
- 0202 ガイドラインへの住民・事業者の誓約
- 0203 ガイドラインの順守状態のモニタリング
- 0204 ガイドラインが守られていない場合の警告
- 0301 エネルギーの使用状況及びよりエコなライフスタイルを提案するレポートの送付(=0101)
- 0302 カーシェア・サービスの提供
- 0303 サイクルシェア・サービスの提供
- 0401 省・創・蓄エネに関する新規サービスの実証実験
- 0501 街づくり委員会、コミッティ役員会の設置
- 0502 街づくり委員会(隔月)、コミッティ役員会(毎月)の定期的開催

*タウンデザイン及びコミュニティデザインガイドライン

直接アウトカム

- 01 住民の理解と行動**
住民が無理なく進んで、省・創エネルギーのための活動や習慣を維持・強化をしている
- 02 ガイドライン**
Fujisawa SSTのガイドライン(*)のエネルギーに関する項目が遵守される。
- 03 エコなタウンサービス利用**
住民がエコなタウンサービスを利用する
- 04 技術革新**
省・創・蓄新規サービスが実装可能な状態になる
- 05 住民や事業者による街の運営**
課題の把握や解決に向けた取り組みが推進される

中間アウトカム

Fujisawa SSTにおけるエネルギーの自給自足を維持・発展するために、将来にわたって住民と事業者によって課題が解決され続ける






最終アウトカム

Fujisawa SSTがエコ＆スマートなくらしを実現する街として進化し続ける

波及効果

- 街の課題が住民や事業者によって解決される風土が醸成される
- 自立共生型のI社が「マナジ」メントの街づくりの知見が他地域でも活用される
- 将来にわたってFujisawa SSTの街の価値が維持・向上する

3 SDGs達成貢献へのシナリオ

アウトカム		紐づけた SDGsターゲット	ターゲット紐づけの解釈と理由
中間	Fujisawa SSTにおけるエネルギーの自給自足を維持・発展するために、将来にわたって住民と事業者によって課題が解決され続ける	 <p>9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p>	Fujisawa SSTでは「創エネ・蓄エネ・省エネ」のハイブリッドな先進技術を街の施設すべてに導入するとともに、設備の稼働状況をモニタリングし、維持している。
		 <p>12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</p>	Fujisawa SSTは「エネルギーの自給自足」や自然との共生を理念にかかげ、入居時には持続可能な街の維持・発展のための「タウンルール」の承諾が求められる。入居後はエネルギーの使用状況等の情報が街の運営支援会社から提供される。
		 <p>17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>	Fujisawa SSTでは住民の協力のもと、事業者による最新技術の実証実験が行われており、その中には環境負荷の低減に貢献する実験も含まれる。
最終	Fujisawa SSTがエコ&スマートな暮らしを実現する街として進化し続ける	 <p>7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。</p>	Fujisawa SSTでは太陽光発電が全ての住宅およびその他施設に設置されており、余剰分は販売されている。 また、エネルギー効率の高い建物や設備が街全体に導入されている。
		 <p>11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。</p>	Fujisawa SSTは「100年続く街」をビジョンにかかげ、持続可能な街の運営に関し、事業体からなるFujisawa SST協議会と住民からなるコミッティが協議するしくみがあり、住民の積極的な参画を求めている。

3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証（まとめ）

凡例 ◎：良好な結果であり、特段の課題はない。更なる成果の増大が期待される。
 ○：概ね良好な結果だが、一部に課題が見られる。改善策の検討・実施を要する。
 △：課題があり、改善すべき余地が十分にある。

□ 検証対象となる項目

施設・設備の現状

戸建て・商業施設とも省・創・蓄エネを実現するハードが実稼働している

- ・ 太陽光発電システムの導入
- ・ 省エネルギーシステムの導入
- ・ 蓄エネルギーシステムの導入

活動・介入

直接アウトカム

中間アウトカム

最終アウトカム

0101 各世帯のエネルギーの見える化とエコなライフスタイルの提案
 0102 エコ・イベントの開催
 0103 防災訓練におけるエネルギー設備の理解促進

01 住民の理解と行動
 住民が無理なく進んで、省・創エネルギーのための活動や習慣を維持・強化をしている

◎ 理解
 ○ 消費行動
 △ 次世代教育

0201 ガイドラインの策定と改定
 0202 ガイドラインへの住民・事業者の誓約
 0203 ガイドラインの順守状態のモニタリング
 0204 ガイドラインが守られていない場合の警告

02 ガイドライン
 Fujisawa SSTのガイドライン(*)のエネルギーに関する項目が遵守される。

*タウンデザイン及びコミュニティデザインガイドライン

0301 エネルギーの使用状況及びよりエコなライフスタイルを提案するレポートの送付(=0101)
 0302 カーシェア・サービスの提供
 0303 サイクルシェア・サービスの提供

03 エコなタウンサービス利用
 住民がエコなタウンサービスを利用する

0401 省・創・蓄エネに関する新規サービスの実証実験

04 技術革新
 省・創・蓄新規サービスが実装可能な状態になる

0501 街づくり委員会、コミッティ役員会の設置
 0502 街づくり委員会（隔月）、コミッティ役員会（毎月）の定期的開催

05 住民や事業者による街の運営
 課題の把握や解決に向けた取り組みが推進される

Fujisawa SSTにおけるエネルギーの自給自足を維持・発展するために、将来にわたって住民と事業者によって課題が解決され続ける

Fujisawa SSTがエコ&スマートなくらしを実現する街として進化し続ける

波及効果

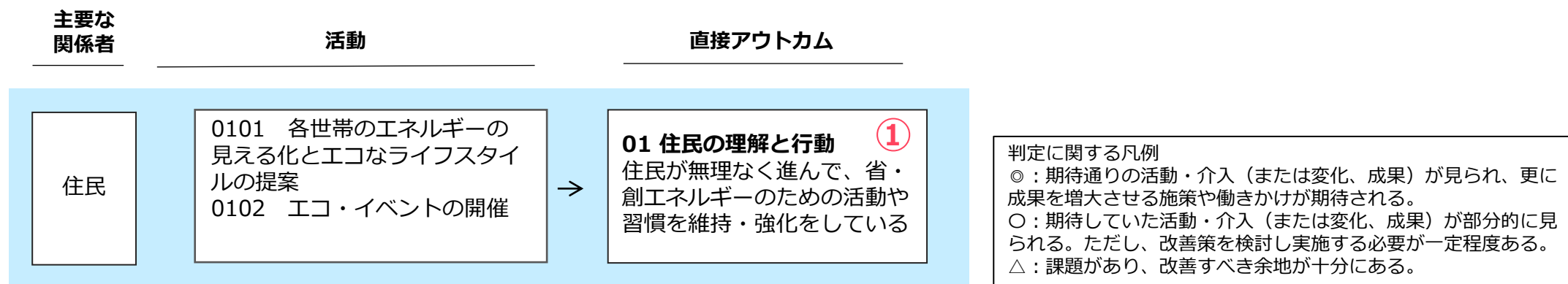
街の課題が住民や事業者によって解決される風土が醸成される

自立共生型のI社キーマネジメントの街づくりの知見が他地域でも活用される

将来にわたってFujisawa SSTの街の価値が維持・向上する

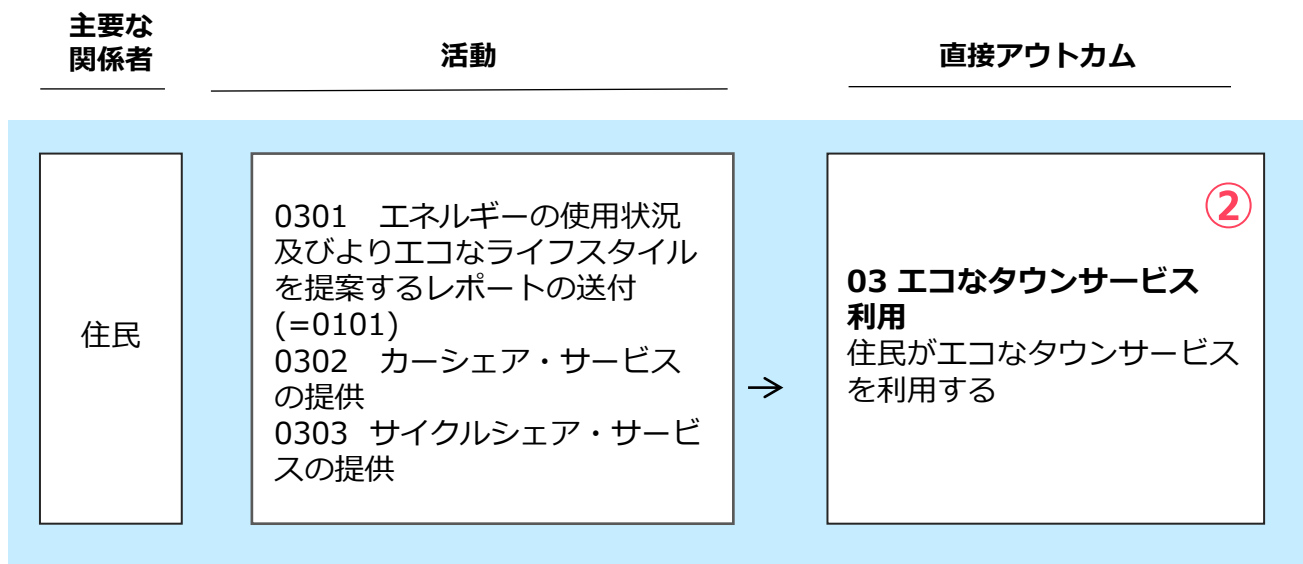
3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）①

- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定しました。



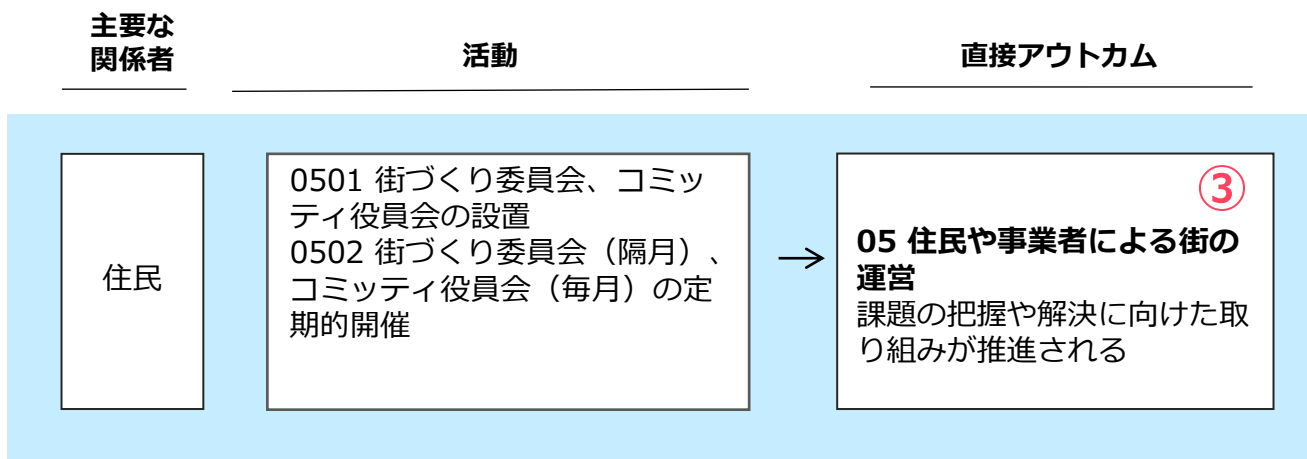
	直接アウトカム	測定結果	評価
①	住民の省・創・蓄エネルギーの理解が進んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> Fujisawa SSTで暮らす前よりも自分の家のエネルギー消費について気にするようになった回答が大半で、「前から気にしていたので変わらない」と答えた回答とあわせて9割以上がエネルギー消費を気にしている。 気にするようになった理由では「エネルギー・レポート」「エネルック」等によるエネルギー使用量の可視化が最も影響が大きかった。 	◎
	消費行動が維持・強化されているか	<ul style="list-style-type: none"> 環境に負担をかけない今の暮らしを維持していきたいと思う一方で、エコな暮らしを支える機器が壊れた際には、高くても買う、どちらともいえない、高ければ買わないに三分された。 	○
	こどもの環境学習の機会を利用しているか	<ul style="list-style-type: none"> 小学生以下のこどもがいる家庭のうち、大半は子ども向けのエコについて学ぶイベントに参加させたことがなかった。「エコについてのイベントがあった記憶がない」とのコメントもあった。 	△

3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）②



	直接アウトカム	測定結果	評価
②	カーシェアを利用しているか	<ul style="list-style-type: none"> カーシェアの利用は回答者の2割で、利用する理由としては経済性が一番多く、次に利便性（2台目自家用車の代わりとして、便利）、環境に優しいことが挙げられた。 エネルギー・レポートが住民のエネルギー使用の意識化に最も貢献していることが明らかになった。 	○
	サイクルシェアを利用しているか	<ul style="list-style-type: none"> カーシェアの利用は回答者の2割で、利用する理由としては経済性が一番多く、次に利便性（2台目自家用車の代わりとして、便利）、環境に優しいことが挙げられた。 エネルギー・レポートが住民のエネルギー使用の意識化に最も貢献していることが明らかになった。 	○

3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）③



	直接アウトカム	測定結果	評価
③	街の持続発展について関心が高いか	<ul style="list-style-type: none"> 次の世代までFujisawa SSTが持続・発展して欲しいと回答した数は「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」併せて95%で、理由については、半数近くが環境問題の悪化を防ぐためと回答し、快適に住み続けられる街であって欲しいこと、街づくりのモデルとなることが続いた。 	◎
	取組への意欲はあるか	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験には、回答者全員が協力する意思を示し、そのなかで生活に少し不便があっても協力したいと答えた割合が31%だった。 エコ&スマートFujisawa SSTの発展のために、56人中51人が家の設備を維持すると半数が回答したほか、26人が街づくりの参加、15人が周りの人と話すことに意欲を示した。 	◎

- 測定結果を踏まえ、以下の改善・更なる向上のための施策が考えられる。

アウトカム	指標測定結果の解釈	改善・更なる向上のための施策案
<p>01 住民の理解と行動 住民が無理なく進んで、省・創エネルギーのための活動や習慣を維持・強化をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> エコな暮らしを求めてFujisawa SSTに入居した住民の環境意識が、使用エネルギーの見える化により維持・強化されている。 エコな暮らしを支える機器の買い替えの際の情報提供や働きかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用エネルギーの見える化を継続・強化する。 エコな機器の平常時・災害時のメリットについて防災訓練を通じて理解を深める取り組みを継続する。 エコな機器や家電の寿命が近づく頃に家屋の定期点検時等適切な機会を利用して、新しい機器の提案ができるように、働きかけのしくみをディベロッパーや家電販売者等、街のエコ&スマートな暮らしを支えるステークホルダーが協働して構築する。
<p>05 住民や事業者による街の運営 課題の把握や解決に向けた取り組みが推進される</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの年代に応じた環境教育の機会が限られている。 子どもの環境意識を高め、エコ&スマートな街に誇りを持てるような働きかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの年代に応じた環境教育の機会を充実させて、子どもたちの環境意識を高めるとともに、街の担い手としての気持ちを持てる働きかけを行う。 ※できるだけ負荷なく、持続可能な方法を模索する。 【例】参加者の多い既存のキッズ・ファミリー向けイベントに環境教育の要素を加える / 小学生の「自由研究」や中学生以上の「調べ学習」「課題」の題材として、エコ&スマートの技術や街づくりの情報を提供したり、まちのエコ&スマートな暮らしの仕事に携わるおとなと交流できるようにする。
<p>03 エコなタウンサービス利用 住民がエコなタウンサービスを利用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> モビリティのタウンサービスがニーズのある住民に活用されている。 使用エネルギーの見える化はアウトカム01に貢献している 	<ul style="list-style-type: none"> コミッティ等で、日々の街の課題に加えて、より多くの住民の参画や、こども世代の環境教育等、100年先を見越した街の担い手育成の戦略についても検討する。 戦略の実施において「コミッティセンター」、「班会」、「寺子屋」、「ウェルネススクエア南館」等、住民の交流を促進するを地域資源の連携と活用を進める。 <p>(新規のエコなタウンサービスが導入される際にはアウトカム01「住民の理解と行動」等他のアウトカムと相乗効果を生むように工夫点を検討する)</p>

Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（Fujisawa SST）
におけるコミュニティケアの普及

本レポートは、Fujisawaサステイナブル・スマートタウンのコミュニティケア事業について、社会的インパクト・マネジメントの手法を用い、特にSDGsの観点から地域住民が安心して暮らせるコミュニティづくりに向けたシナリオ・現状・課題を分析し、今後に向けた施策を検討したものです。

目次

本編

サマリー

1. 対象事業の概要
2. 社会的インパクト・マネジメント実施の目的
3. SDGs達成への貢献シナリオ
4. 価値創出力を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

添付

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果

Fujisawaサステイナブル・スマートタウンにおけるコミュニティケアの普及を目指して

本実証事業の目的（詳細p4-5）

- Fujisawaサステイナブル・スマートタウンの掲げる「全ての世代が安心して暮らすためのコミュニティケアの普及」を目指し、学研ココファンが主となり実施している取り組み（サービス付き高齢者住宅の勤務形態の多様化と交流事業の実施）を対象にした実証事業である。
- 社会的インパクト・マネジメントを通じてその成果の可視化および改善策の検討を行い、SDGsの達成に貢献していく。

理解されたこと（詳細p8-12）

- サービス付き高齢者住宅（以下、サ高住）の短時間勤務スタッフ（非専門職）の雇用を進めることで、サ高住の担い手の増加と専門職の負担軽減に励んでいる。短時間勤務スタッフの満足度は高い。
- 交流事業の実施をとおして、住民同士の交友関係の広がりや他者に対する理解の促進において一定の効果が見られる。
- 住民の交流事業の運営に関する参加意欲やその機会は限られており、主体性の広がりあまり見られない。
- 交流事業への参加が、身体面、精神面、知的面において一定の効果があると参加者が感じている。
- 以上より、コミュニティケアの普及に向けて学研ココファンが推める取り組みは一定の効果があると言える。

改善・更なる向上のための施策案（詳細p13）

- 短時間勤務スタッフの雇用が、専門職の負担軽減と満足度向上に繋がっているのか調査する必要がある。
- 交流の活発さや参加者の交流ニーズについてはイベントごとにばらつきがあるため、まずは運営側でイベントの目的および運営方法の再確認を行うことが求められる。また交流を主目的の一つにする場合は、その機会を設けるなどの工夫が望まれる。
- 住民の交流事業運営への参画については、運営側も積極的に周知をしてこなかったため、まずは参加者への周知と声掛けが必要だと思われる。
- 交流事業への参加や交流機会の拡大が住民のウェルビーイングにどれだけ寄与しているかを今後明らかにしたい場合には、評価デザインの再検討が必要になる。

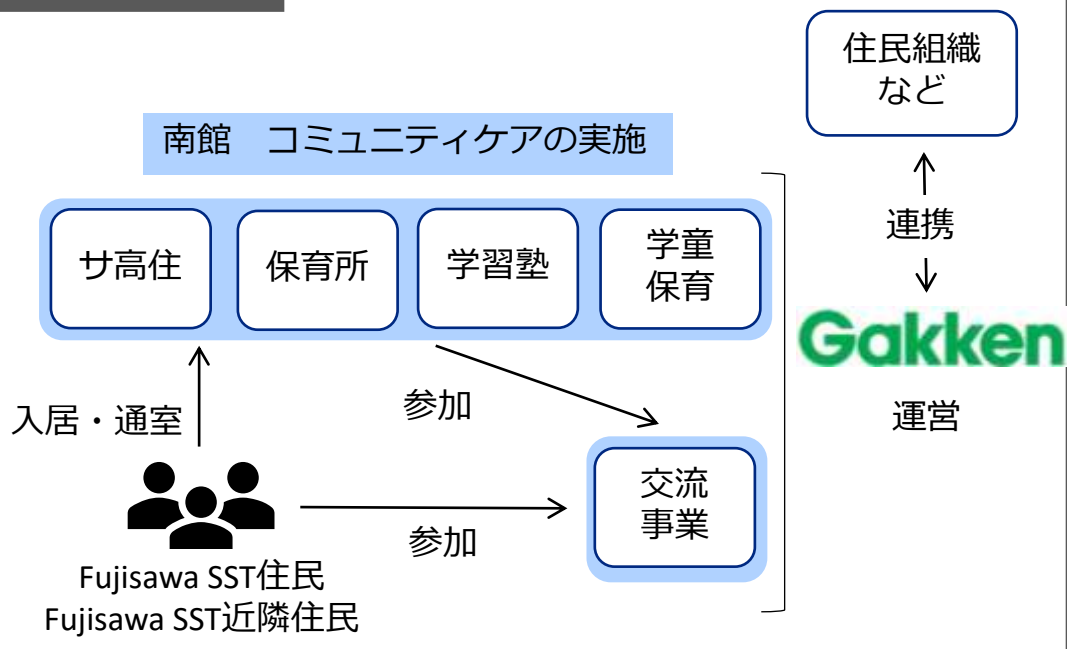
関連するSDGs



1 対象事業の概要

組織名／事業名	Fujisawa SST協議会／全ての世代が安心して暮らすためのコミュニティケアの普及 ※コミュニティケアとは：街にかかわるすべての人に対して、世代をこえたつながりと助け合いを通じて、にぎわいと生きがいを提供し、ずっと健康で自分らしくいられる、心ゆたかな暮らしを実現します。
事業概要	コミュニティケアの普及を目指して学研ココファンが取り組む 1) サービス付き高齢者住宅（以下、サ高住）における職員の勤務形態の多様化 および 2) 交流イベントの企画・運営
事業対象者	サ高住の住民、Fujisawa SST住民、Fujisawa SST近隣の住民
事業が取り組む社会的課題	全国的に高齢化が深刻化する中で、成り立ちの背景から地縁組織による助け合いが不在であるFujisawa SSTでは、まちに住む全ての世代が各々の課題に直面する中で、フォーマル（制度、サービス等）およびインフォーマル（つながり等）の仕組みが上手く機能し、全世代が安心して暮らすことの出来る持続可能なコミュニティをつくる必要がある。
事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェルネススクエア南館（以下、南館）に、サ高住、保育所、学習塾、交流拠点を併設し「つながり」を生みだす ・ 多世代を対象にした交流イベントを頻繁に学研ココファンが企画し交流を促進

実施体制



(交流事業例1：囲碁教室)

- ・ 市民団体の囲碁普及会により月2回の頻度で実施
- ・ 子供から大人まで各回10名前後の参加がある

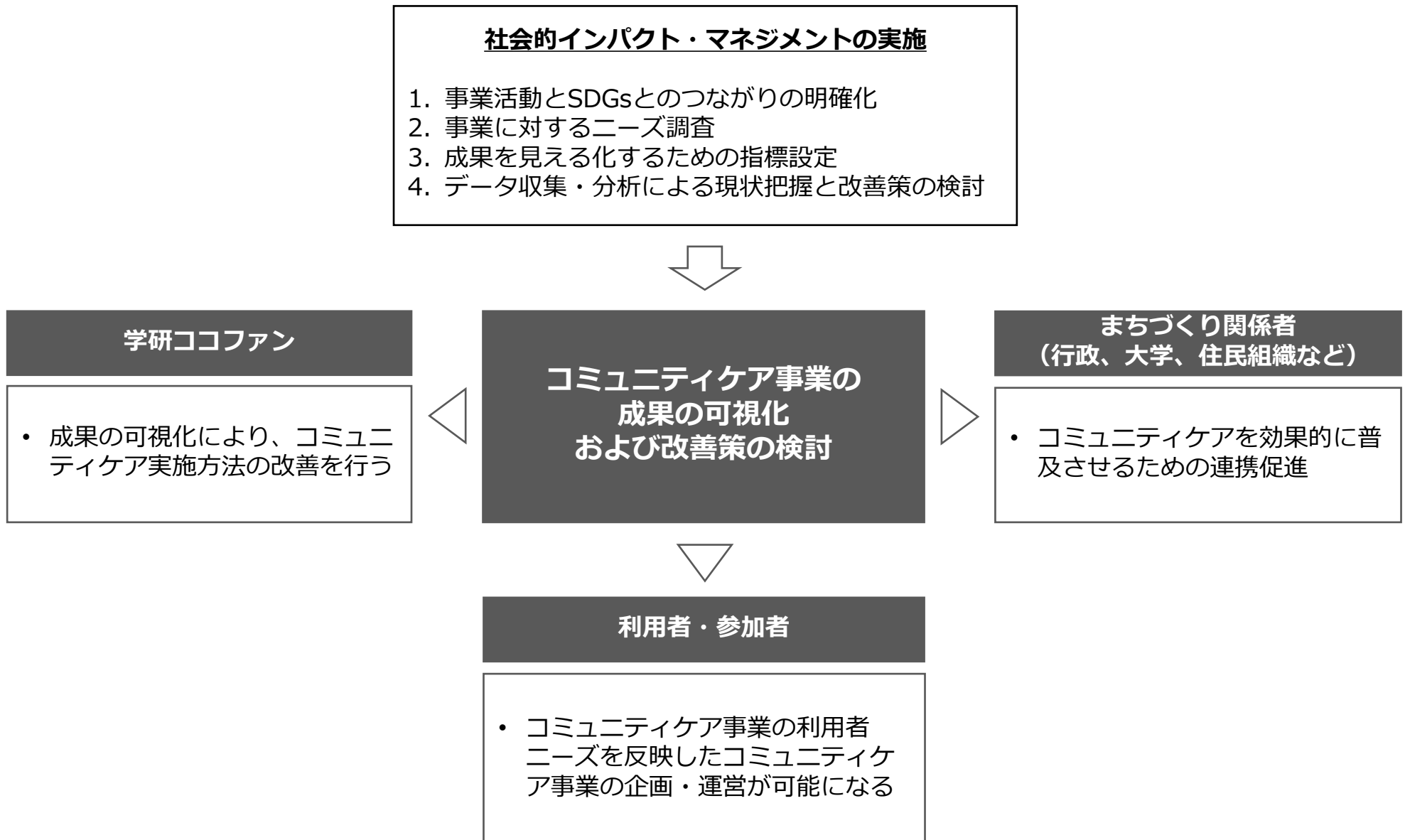


(交流事業例2：お話し会)

- ・ 子育て経験のある女性二人による「はまちゃん・はまちゃん おはなし会」
- ・ 保育所の園児や住民が参加

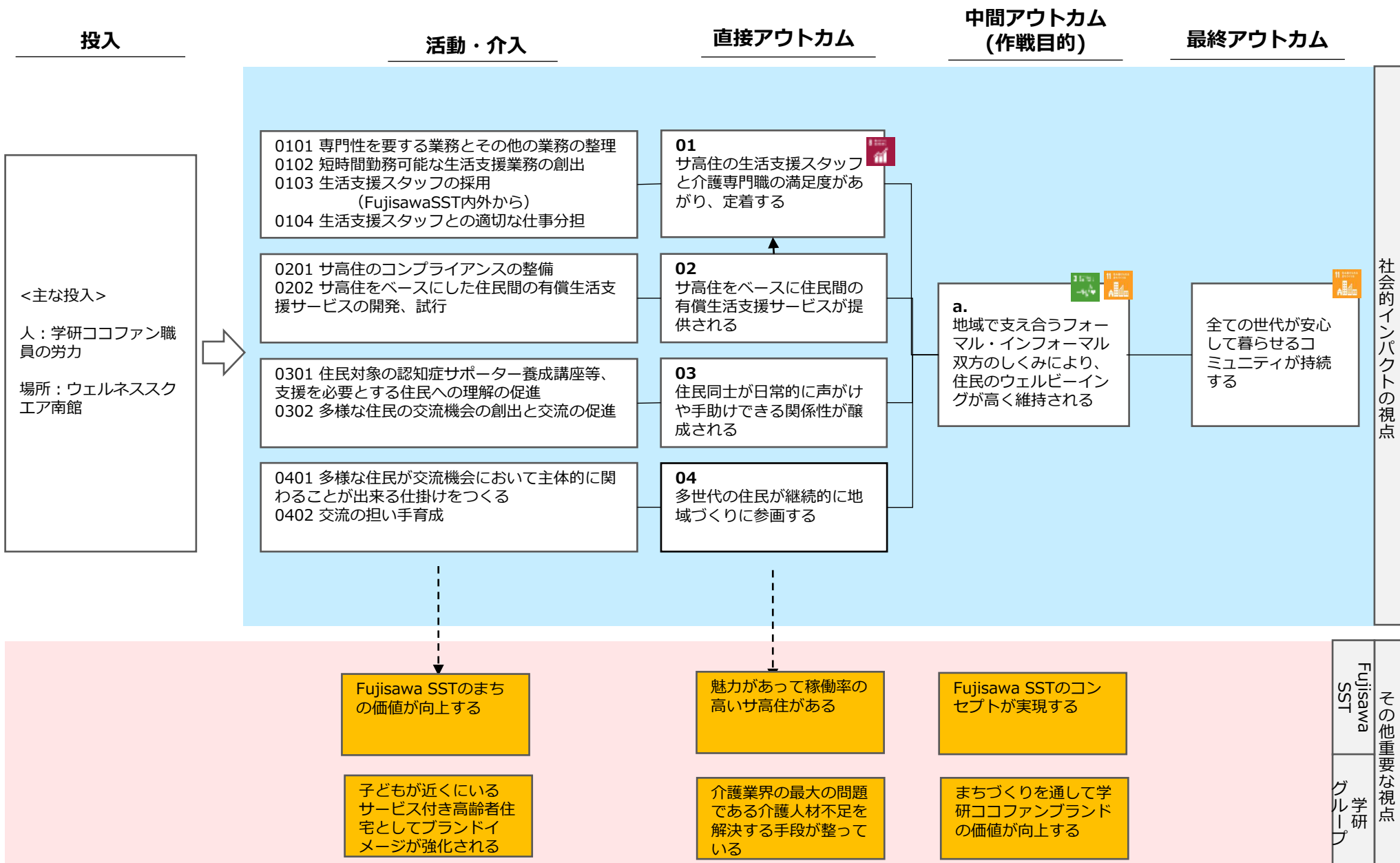





2 社会的インパクト・マネジメント実施の目的



3 SDGs達成貢献へのシナリオ

事業目標 Fujisawa SSTに、地域で支え合うフォーマル・インフォーマル双方の仕組みが構築されることで、全世代が高いウェルビーイングを維持しながら安心して暮らし続けることができる

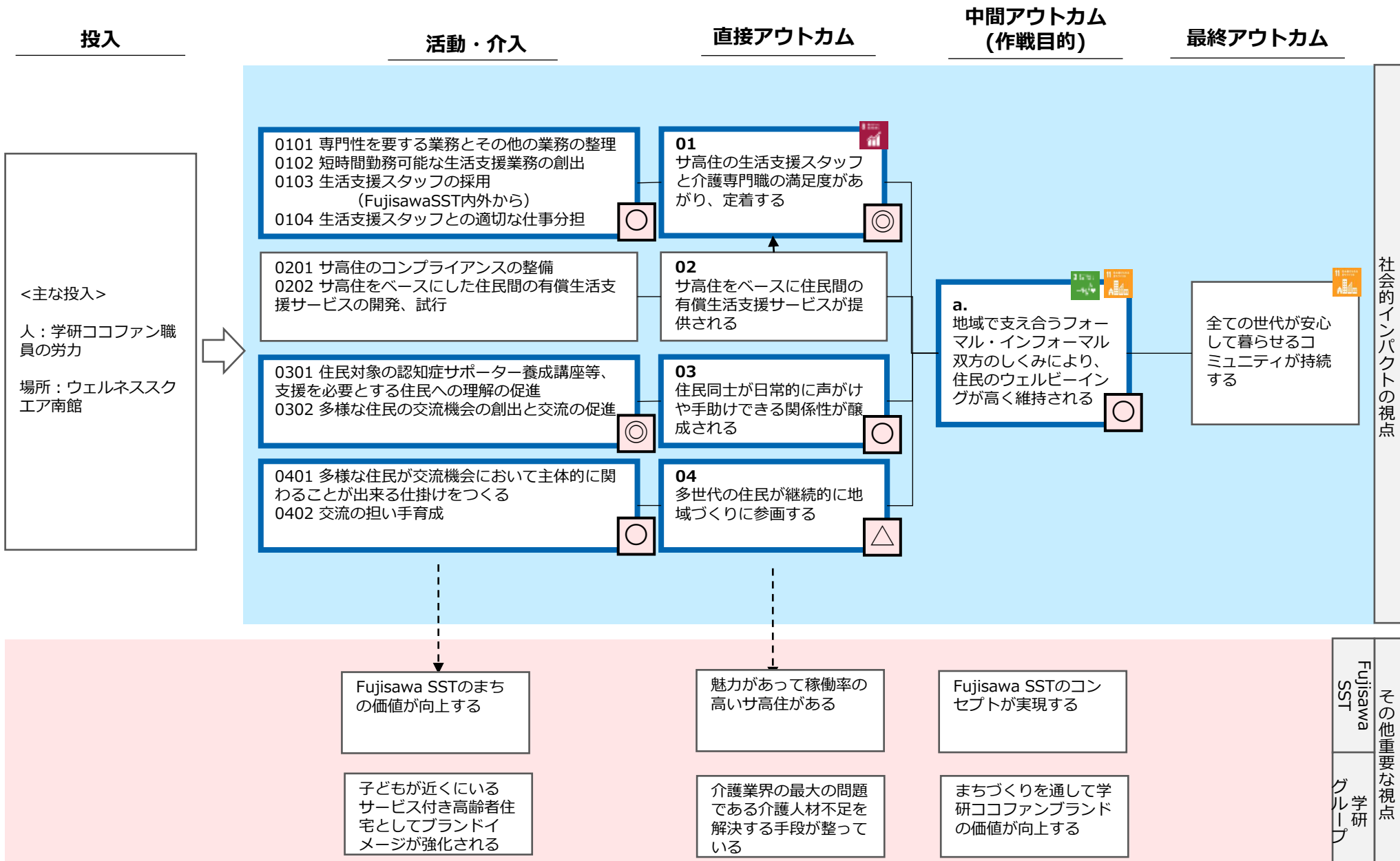


紐づけた SDGsターゲット	ターゲット紐づけの解釈と理由
 <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する（ゴール3）</p>	<p>コミュニティケアの普及による全ての世代のQOL向上は、ターゲットレベルでは紐づきがないが、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」というゴールで紐づけられる。</p>
 <p>高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。（8.2）</p>	<p>労働集約型セクターにあたる介護業界は深刻な人手不足が課題となっており、南館にあるサ高住も例外ではない。特に、専門職の大きい業務負担と不安定な定着率が問題となっていた。</p> <p>そのため、短時間勤務の生活支援スタッフ（非専門職）の雇用による勤務形態の多様化をすすめ、適切な業務分担により効果的、効率的な仕事を推進している。</p>
 <p>2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。（11.3）</p>	<p>最終アウトカムになっている「全ての世代が安心して暮らせるまちづくり」は包摂的な社会をつくることと同義である。</p> <p>また、コミュニティケアは住民の参加によって支えられる仕組みであり、実際に住民参加の機会提供および促進が積極的に行われている。</p>

3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証（まとめ）

凡例はP8参照

検証対象となる項目



3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）①

- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。

判定に関する凡例

- ◎：期待通りの活動・介入（または変化、成果）が見られ、更に成果を増大させる施策や働きかけが期待される。
- ：期待していた活動・介入（または変化、成果）が部分的に見られる。ただし、改善策を検討し実施する必要が一定程度ある。
- △：課題があり、改善すべき余地が十分にある。

主要な
関係者

活動・介入

直接アウトカム

ココ
ファン
藤沢
SST

0101 専門性を要する業務とその他の業務の整理
0102 短時間勤務可能な生活支援業務の創出
0103 生活支援スタッフの採用
(Fujisawa SST内外から)
0104 生活支援スタッフとの適切な仕事分担



01
サ高住の生活支援スタッフと介護専門職の満足度があがり、定着する

活動・介入

実施内容

評価

0101
～
0104

業務整理
&
生活支援スタッ
フの採用

- 専門性を有するスタッフの業務過多により職員が定着しないという問題点があったため、生活支援スタッフとして、ココファン藤沢SSTでは短時間勤務スタッフ（非専門職）の雇用を2019年度に開始した。
- 生活支援スタッフは、主に清掃、配食サービスなど専門スキルが不要な業務のみに携わっており、1日1時間以上、週1回以上という条件で勤務。

○

直接アウトカム

測定結果

評価

01

生活支援スタッ
フの高い満足度
(直接アウトカ
ムの一部)

- 職場環境、内容、やりがい、雇用条件に関する13の質問項目のうち8項目について、回答者の80%以上が前向きな認識「とてもそう思う」または「ややそう思う」を示した。
- 勤務理由の上位も雇用条件、職場環境、通勤の利便性に関するものが多く、期待値と現状の満足度が合致していると判断できる。Fujisawa SST住民で子育て中の女性が多く、勤務時間に融通が利くことが魅力的であるとの回答であった。

◎

3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）②

主要な
関係者

活動・介入

直接アウトカム

学研コ
コファン
&
住民

0301 住民対象の認知症サポーター養成講座等、支援を必要とする住民への理解の促進
0302 多様な住民の交流機会の創出と交流の促進

→

03
住民同士が日常的に声かけや手助けできる関係性が醸成される

	活動・介入	実施内容	評価
0301 ～ 0302	住民を対象にした講座の実施 & 交流事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 定期開催と不定期開催を合計して年約360回の交流事業が実施されている。よって、平均すると1回/日の頻度でイベントが開催されている。 定期開催のイベントは全部で8つあり、全世代を対象としたものは約半数。 交流事業の目的は、健康リテラシー向上、多世代交流、健康増進の延伸、仲間づくりなど多様である。 交流の機会は提供しているが、促進に関する取り組みは途上である。 	◎
	直接アウトカム	測定結果	評価
03	住民同士が日常的に声かけや手助けできる関係性が醸成される	<ul style="list-style-type: none"> 段階評定法（非常に当てはまる=5～まったく当てはまらない=1）を用いてアンケートを実施したところ、イベント全体において「すすんで交流している」に対する回答平均値は3.5となった。 一番交流が活発に行われているプラス・テン体操では、「すすんで交流している」は4.1、「他の参加者を思いやり気を配ったりする」は4.0、「他の参加者から学ぶことがある」は4.1となり、イベントにより偏りがある。 	○

3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）③

主要な
関係者

活動・介入

直接アウトカム

学研コ
コファ
ン&
住民

0401 多様な住民が交流機会において主体的に関わることが出来る仕掛けをつくる
0402 交流の担い手育成



04

多世代の住民が継続的に地域づくりに参画する

活動・介入

実施内容

評価

0401
～
0402

主体的に交流事業に関わる機会の創出
&
交流事業の担い手育成

- 将来的には、交流イベントがFujisawa SST住民や参加者により運営されることを目指しており、交流事業によっては、地域サークルと連携したイベント運営を試みている。たとえば、「おはなし会」は近隣住民の主婦グループによって、「囲碁教室」は囲碁普及会というボランティア組織によって運営されている。
- 一方で、参加者が交流事業の担い手になる仕掛けや機会は未だ設けられていない。

○

直接アウトカム

測定結果

評価

04

多世代の住民が継続的に地域づくりに参画する

- 回答者のうち38%が「交流事業のお手伝いをしたい」、33%が「交流事業において自身からすすんで取り組んでいることがある」と回答した。以上より、主体的な参画意欲は高くなく、また参画機会も限られていると思われる。
- 一方で、「すすんでお手伝いをしたいと思う」について段階評定法（非常に当てはまる=5～まったく当てはまらない=1）を用いてアンケートを実施したところ、「歌声の会」は4.8となり参画への意欲は高いことが分かった。

△

3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）④

- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。

主要な
関係者

中間アウトカム

住民	<p>a.</p> <p>地域で支え合うフォーマル・インフォーマル双方のしくみにより、住民のウェルビーイングが高く維持される</p>
----	---

中間アウトカム

測定結果

評価

a	住民の高いウェルビーイングの維持	<ul style="list-style-type: none"> 段階評定法（非常に当てはまる=5～まったく当てはまらない=1）を用いてアンケートを実施したところ、イベント全体では、「健康につながっていると思う」と「気持ちが前向きになる」が3.9、「頭の体操になっている／知的刺激になっている」は3.7であった。 ただしイベントによって参加者が感じるウェルビーイングへの貢献度合いはバラつきがある。「歌声の会」は3つの項目において4.8と高くなっている。 	○
----------	------------------	---	---

- 測定結果を踏まえ、以下の改善・更なる向上のための施策を実施する。

関係者の変化・成果	指標測定結果の解釈	改善・更なる向上のための施策案
<p>【学研ココファン】 生活支援スタッフの 高い満足度</p>	<p>職場環境、内容、やりがい、雇用条件に関する13の質問項目のうち8項目について回答者の満足度が高く、仕事を始めた理由とも合致している。よって、仕事に対する期待感と実態の乖離が少ないと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意図している成果は、介護専門職の負担軽減および定着率の向上であるため、今後、介護専門職スタッフに対しても同様の調査を実施することが望まれる。 夕方から夜の時間帯において、生活支援スタッフは依然として不足しており、人材確保が必要である。場合にはターゲット層の変更も検討の余地がある。
<p>【住民】 住民間の関係性の 醸成と深化</p>	<p>イベントごとのばらつきがある。理由として、交流による住民間の関係性の醸成と深化について運営側が目的意識をもっているか、また、それを達成するための活動内容や運営方法になっているかが影響しているように思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 住民の交流が活発化するような場所の設定（例：朝市でのお茶スペースの設置）や声掛けをする等の雰囲気醸成がすぐに出来る工夫としてあげられる。 また、交流ニーズの有無、その理由、交流促進の仕掛けについて、普段の参加者との会話から運営側が把握出来るようにしておくと、効果的な介入が期待される。
<p>【住民】 多世代の住民が継続的に 地域づくりに参画</p>	<p>実態として住民の運営協力への参加は限られている。一方で、運営側もそのような働きかけを今まで取り組んできていなかったため、妥当な結果であると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> そもそも運営協力募集の旨を積極的に周知していないため、まずは周知をしていくことが必要である。 一方で、イベントの立ち上げ希望者や運営協力を申し出た者に対して、適切なサポートやコミュニケーションが出来るよう準備することが運営側にも求められる。
<p>【住民】 住民の高い ウェルビーイング の維持</p>	<p>参加者の主観によるものではあるが、イベント参加は、一定程度ウェルビーイングの向上に貢献していると思われる。一方で、ロジックモデルに描いていた「交流」という要素のウェルビーイングの貢献度合いは不明瞭である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> イベント参加者のウェルビーイングは、以上の取り組みを実施していくことで向上していくことが期待される。一方で、イベントへの参加や交流機会のウェルビーイング向上への寄与度については、比較対象グループの設定し長期的に測定するなど評価デザインの再検討が必要になる。

インターネットインフィニティー社の
ビジネスを通じた社会的価値の創出

本レポートは、インターネットインフィニティー社の主力事業であるレコードブック事業について、社会的インパクト・マネジメントの手法を用い、特にSDGsの観点からビジネスを通じた社会的価値創出のシナリオ・現状・課題を分析し、今後に向けた施策を検討したものです。

目次

本編

サマリー

1. 対象事業の概要
2. 社会的インパクト・マネジメント実施の目的
3. SDGs達成への貢献シナリオ
4. 価値創出力を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

添付

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果（非公開）

社会的インパクト・マネジメントの対象事業について

対象事業
→ P32参照

【レコードブック事業】
高齢者の健康寿命延伸を目的とした
「健康と笑顔をつくる」
3時間リハビリ型デイサービス事業

事業目標
→ P32, P34
参照

- 高齢者の身体・心・脳の健康の維持・増進
- 社会参加の促進
- 上記2点による健康寿命の延伸

関連
SDGs
→ P35参照



検証事項
→ P34参照

- 【レコードブック利用者】
- サービスに満足しているか
(心と脳の健康の維持・増進、社会参加促進)
- 介護度が維持・改善されているか
(日常運動量や身体機能の維持・向上)
- 【レコードブック従業員】
- モチベーション・スキルが向上しているか
- 【ケアマネジャー】
- サービスへの信頼性を持たれているか

検証結果と改善案

検証結果
概要
→ P36-39
参照

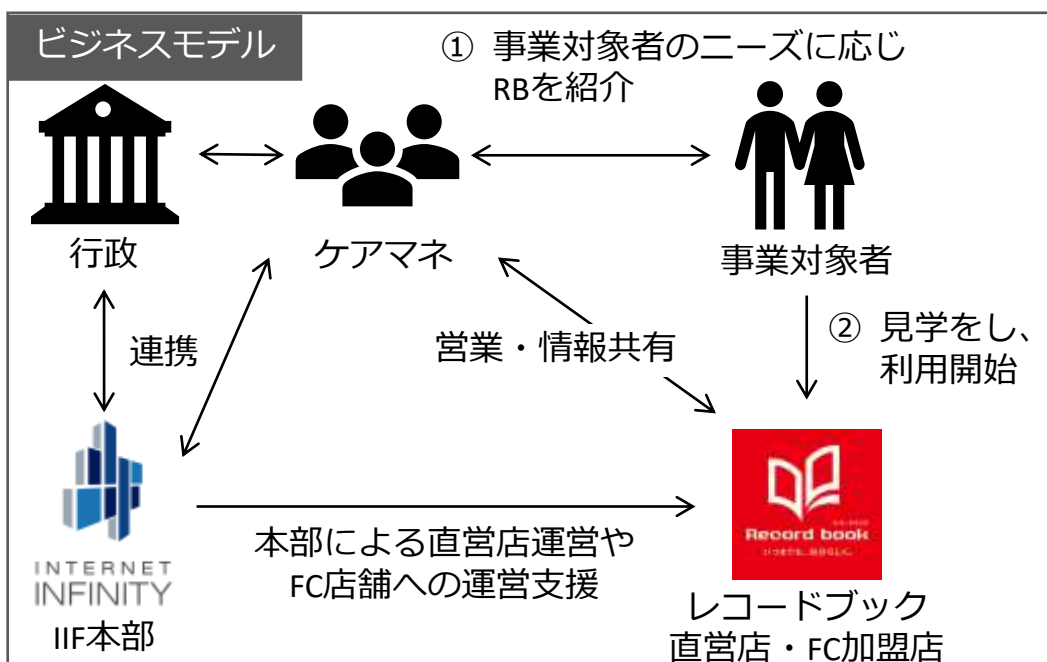
- 【レコードブック利用者】
- 運動による身体の健康への満足度は高い
- 心と脳の健康は身体の健康に比べ相対的に低い結果
- レコードブック施設外での社会参加は限定的
- 【レコードブック従業員】
- 利用者や同僚との人間関係は良好
- 総合的に見て今の仕事に満足している数値は相対的に低い
- 【ケアマネジャー】
- プログラムの質や従業員の対応を高く評価
- 従業員との連携を更に高める必要性

改善案
→ P40参照

- 心と脳の健康に関するプログラムの改善検討
- 社会参加に関する利用者ニーズの把握
- 従業員とのビジョン共有と習得スキルの体系化
- ケアマネジャーとのコミュニケーション改善策策定

1 対象事業の概要

組織名	株式会社インターネットインフィニティー
事業名	レコードブック（RB）事業
事業概要	高齢者の健康寿命延伸を目的とした「健康と笑顔をつくる」3時間リハビリ型デイサービス事業
事業対象者	軽度（要支援1~2、要介護1~2）の介護認定者
事業が取り組む社会的課題	日本では少子高齢化が社会課題となり、世界に先駆けて超高齢社会に突入した。高齢化は今後団塊世代の影響によりさらに加速する。こうした社会のもとで、高齢者自身が、活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるようになることが求められている。
事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> 多くの介護サービスがあるなかで、「介護予防」に重点をおき他社と差別化 乱立するレスパイトケア型ではなく、国家戦略と方向性を同じくする介護予防サービスを提供 都市部の急激な高齢化を見据え、都市部を主要サービス提供エリアとするドミナント戦略



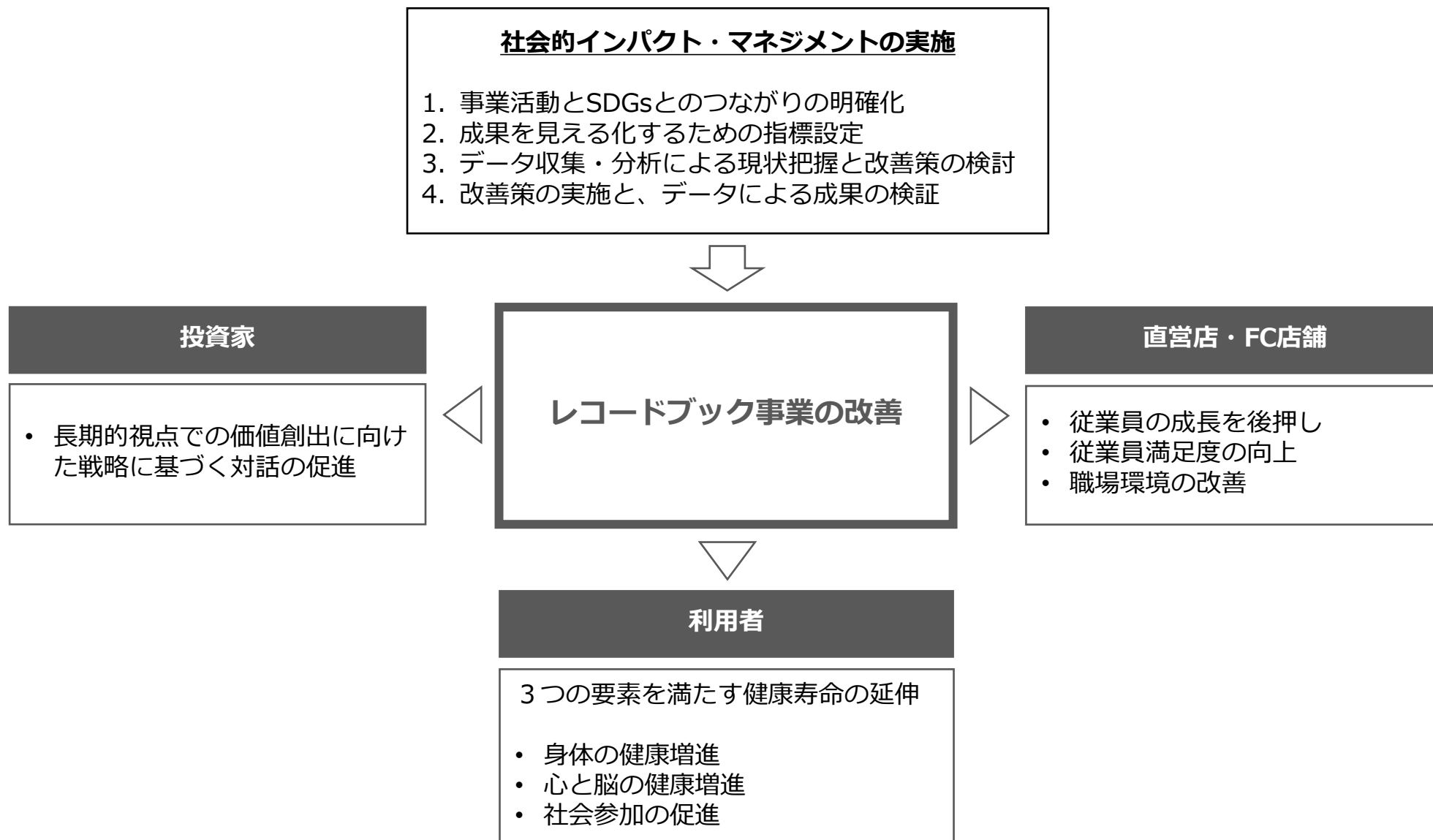
RBの強み

- コミュニケーション能力や運動指導能力のある従業員の育成
- デイサービスを感じさせない環境づくり
- 利用者の能力を最大限に引き出す運動プログラムの提案・実践
- 地域のケアマネジャーや地域住民との関係構築



2 社会的インパクト・マネジメント実施の目的

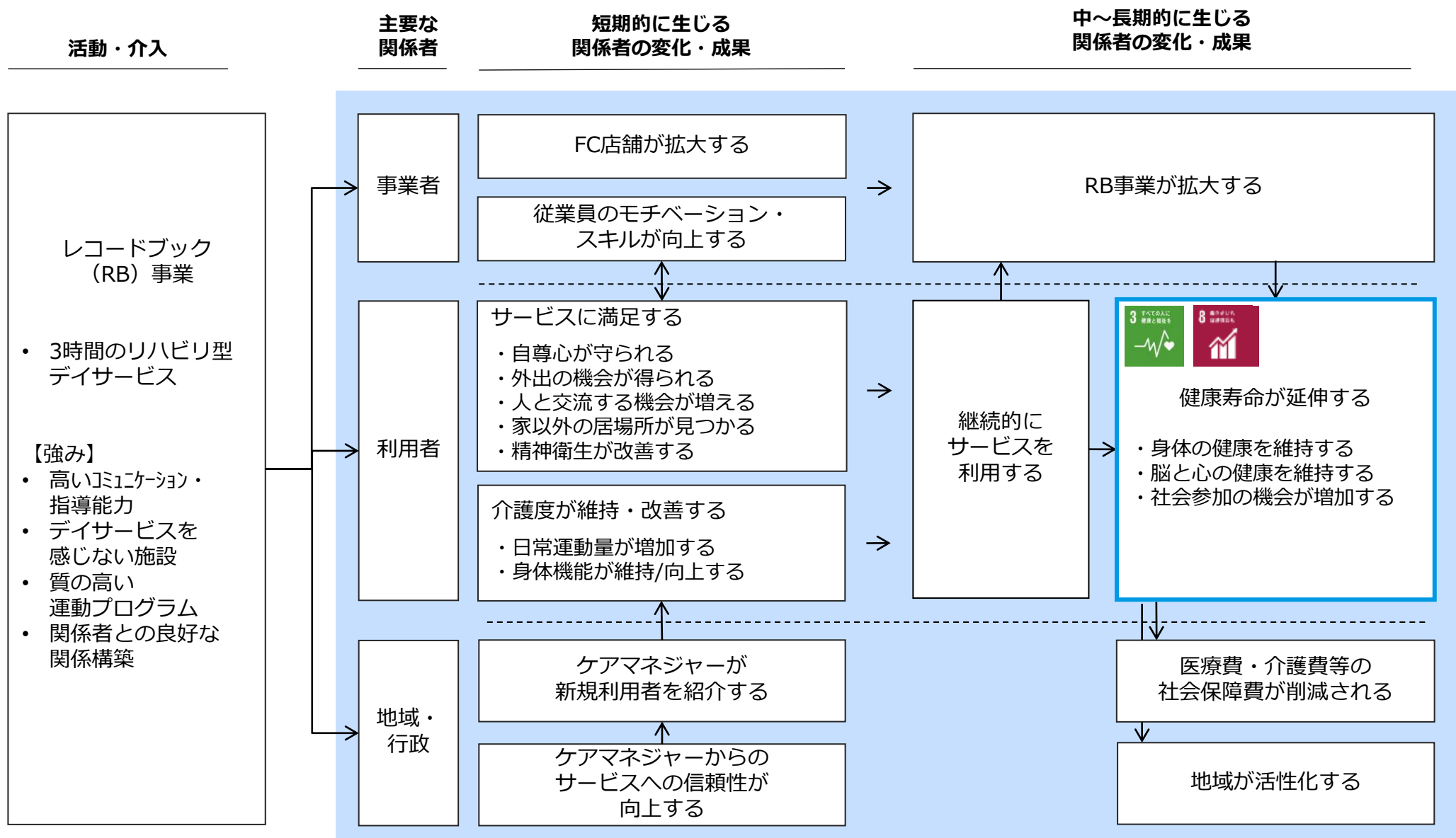
- 以下に示す目的を達成するために、社会的インパクト・マネジメントを通じたレコードブック事業の事業改善を行う。



3 SDGs達成貢献へのシナリオ



事業目標

高齢者の身体・心・脳の健康の維持・増進と、社会参加を促すことで健康寿命を延伸する

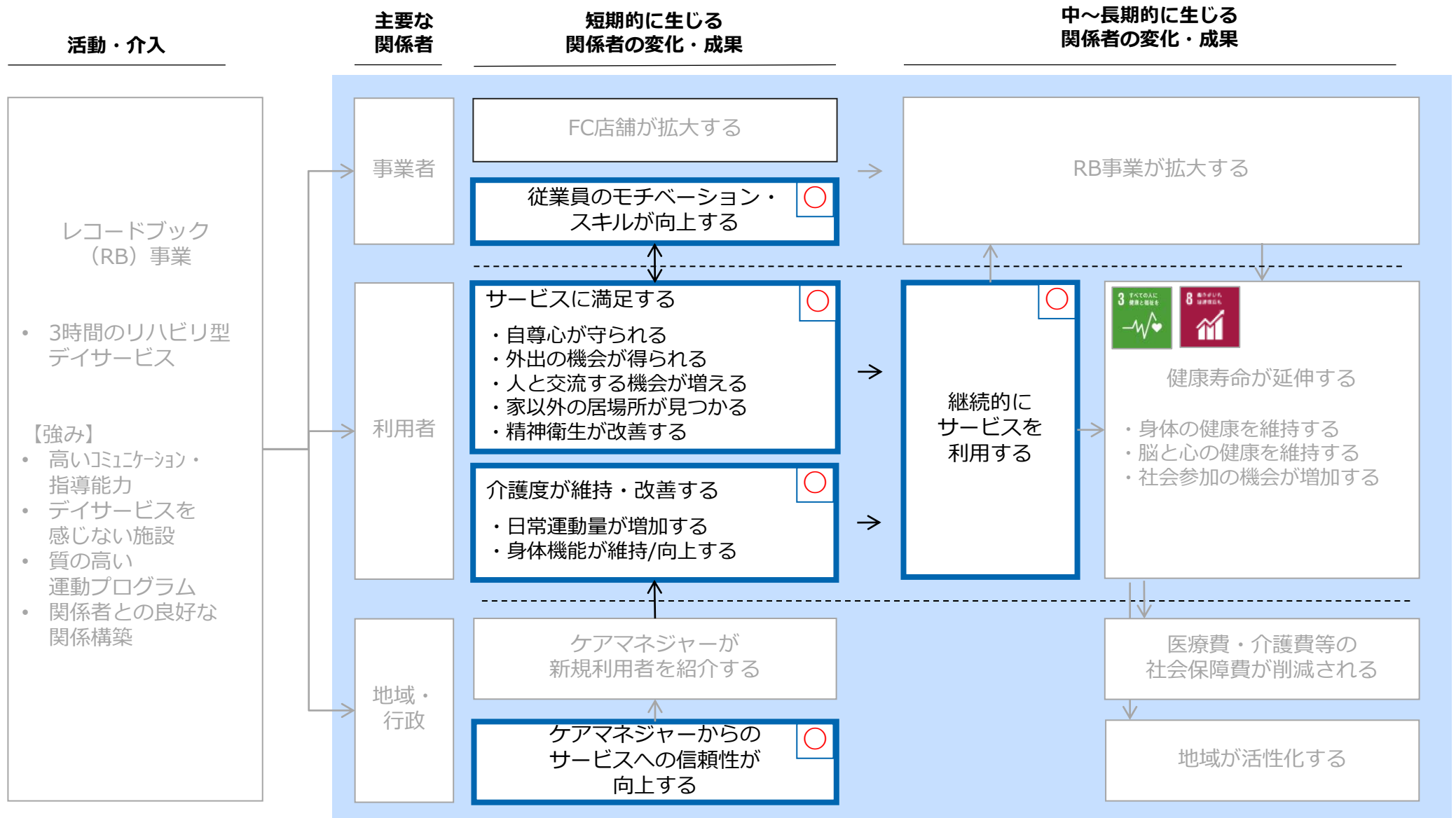


3 SDGs達成貢献へのシナリオ

- 本事業がSDGsターゲットに対し与える正・負の影響とその理由を一覧にした。

紐づけたSDGsターゲット	正の影響	負の影響	ターゲット紐づけの解釈と理由
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>すべての人々に対する財政保障、質の高い基礎的なヘルスケア・サービスへのアクセス、および安全で効果的、かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンのアクセス提供を含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。（3.8）</p> <p><平和と健康のための基本方針> 「全ての人々が生涯を通じて基礎的保健サービスを必要な時に負担可能な費用で受けることができる UHC の実現を目指す。提供されるべきサービスには、…（中略）…、高齢者の医療介護、口腔衛生などあらゆる基礎的保健サービスを含む。」 （日本政府健康・医療戦略推進本部）</p> <p><SDGsアクションプラン2020~2030年の目標達成に向けた「行動の10年」の始まり～> 「優先課題②：健康・長寿の達成」に介護についても記載。 （日本政府SDGs推進本部）</p>	✓	—	<p>質の高いヘルスケア・サービス（介護予防）を高齢者に提供するとともに、それを通じたUHCの達成が考えられる。</p> <p>SDGsに取り組む日本政府の健康・医療戦略推進本部でも「高齢者の医療介護」をUHCの一つとみなしており、RB事業は本ゴール・ターゲットと関連づけられる。</p> <p>日本政府によるSDGsアクションプランでは、「健康・長寿の達成」が優先課題と位置付けられ介護にもついても多く触れられている。</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する（8.5）</p> <p><日本SDGs実施指針> 「働き方改革は、一億総活躍社会の実現に向けた横断的課題であり、最大のチャレンジ。同一労働同一賃金の実現など非正規雇用労働者の待遇改善、総労働時間抑制等の長時間労働是正、65歳以降の継続雇用・65歳までの定年延長企業の奨励等の高齢者就労促進に取り組み、多様な働き方の選択肢を広げる。」（日本政府SDGs推進本部）</p>	✓	—	<p>高齢者も含めたあらゆる人が生産的で働きがいのある人間らしい仕事を続けられる社会を目指しており、この点はRB事業の最終目的である健康寿命の延伸とも結びつく。</p> <p>また、日本政府のSDGs推進本部においても、65歳以上の就労に取り組んでおり、健康寿命の延伸はこの実施指針とも接合する。</p>

3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証（まとめ）



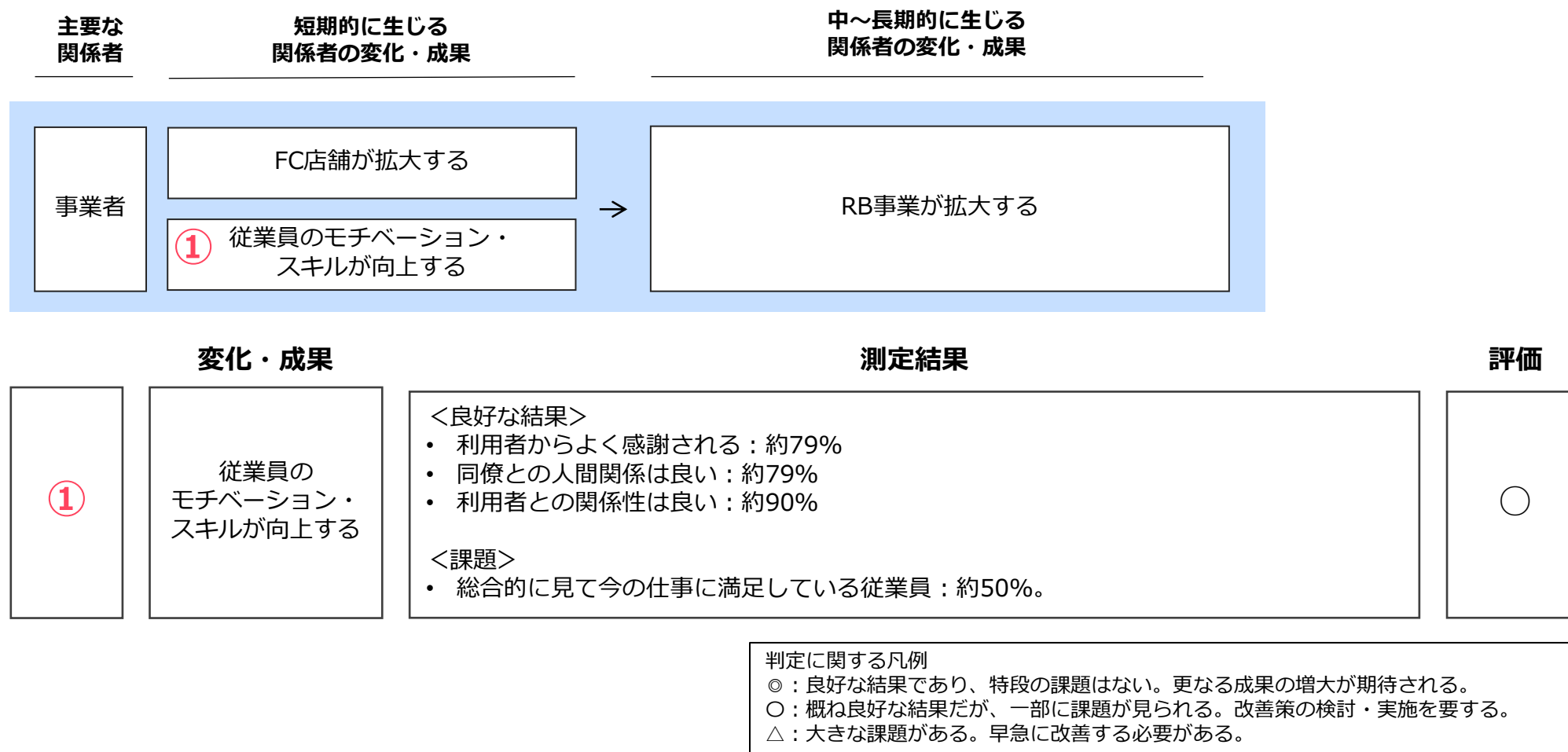
検証対象項目内の判定に関する凡例

- ◎：良好な結果であり、特段の課題はない。更なる成果の増大が期待される。
- ：概ね良好な結果だが、一部に課題が見られる。改善策の検討・実施を要する。
- △：大きな課題がある。早急に改善する必要がある。

検証対象となる項目

3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証①

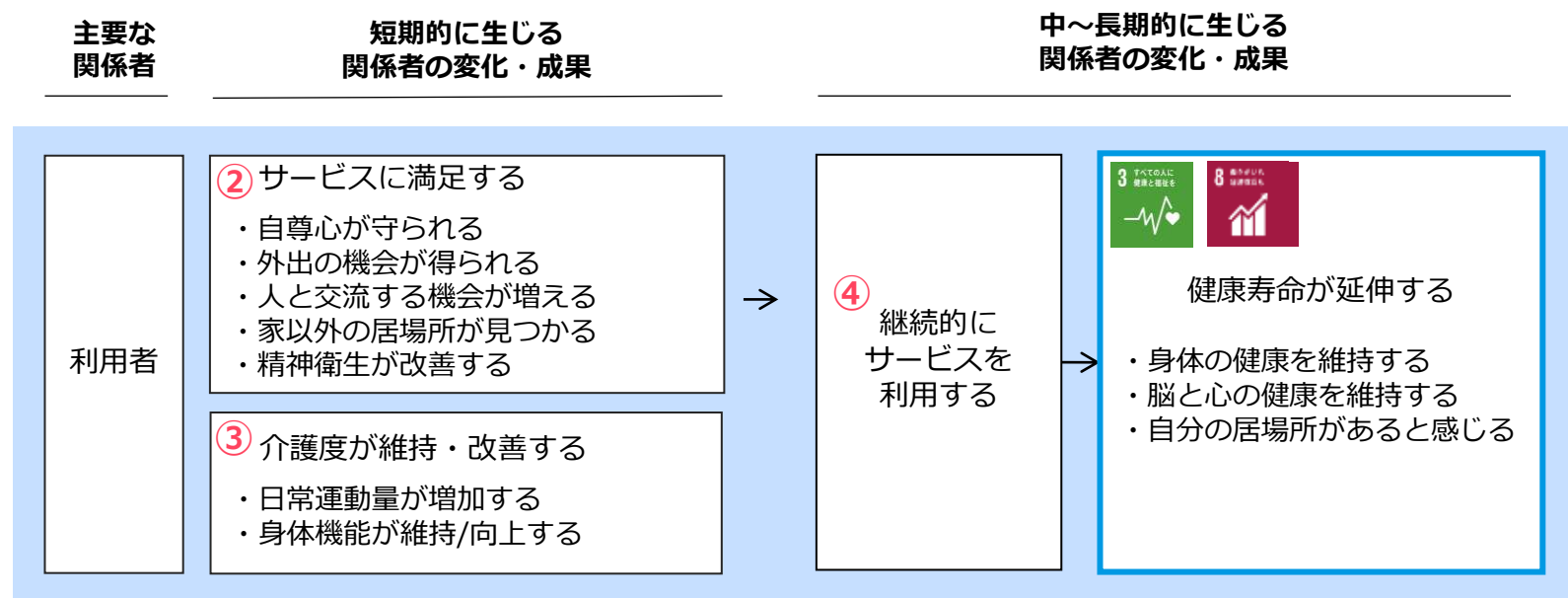
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。



*今回は新たなデータ取得が必要なものについて実施。既存データの活用も今後考えられる。

3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証②

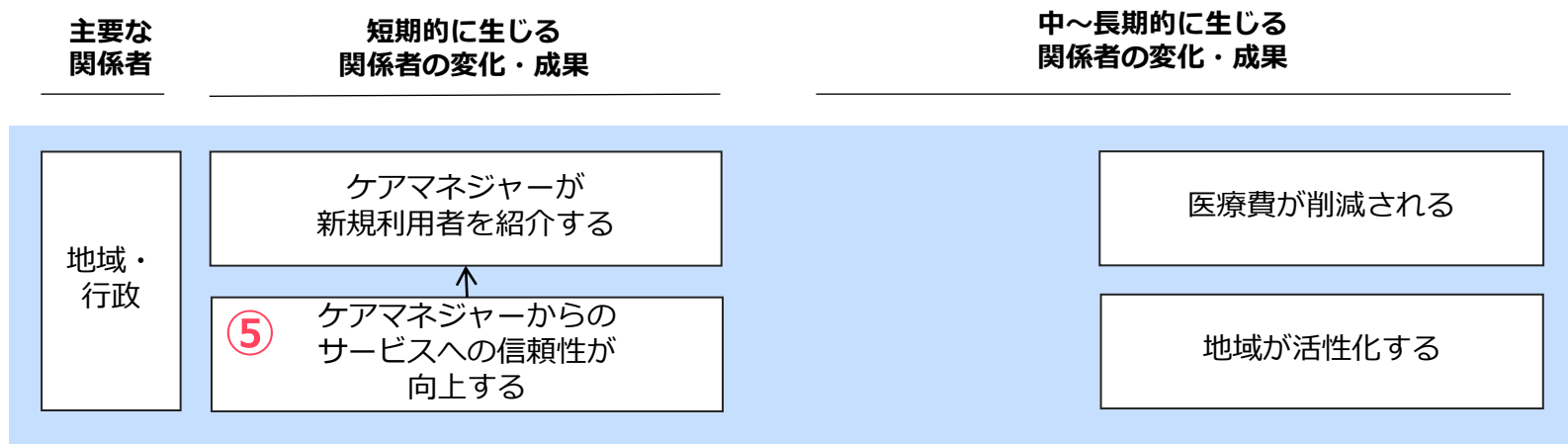
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。



	変化・成果	測定結果	評価
②	サービスに満足する	<p><良好な結果></p> <ul style="list-style-type: none"> RBに満足している：92% RBへ今後も通いたい：99% <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 記述式回答のテキスト分析：主に施設内での交流や運動を楽しんでおり、心と脳の健康や社会参加に関する項目は相対的に低い結果となった。 	○
③	介護度が維持・改善する	<ul style="list-style-type: none"> 「以前に比べ歩く速度が遅くなってきたか」：58%の回答者が「いいえ」 「この1年間で転んだことがあるか」：69%の回答者が「いいえ」 	○
④	継続的にサービスを利用する	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のアンケート結果が一時的に低くなる利用期間（半年から1年の間（データ上では9カ月継続））で継続率をモニタリングし、高める必要がある。9か月継続率は約60%。 当該数値そのものが優れたものかは、今後時系列で考察し検討する必要がある。 	○

3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証③

- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。



	変化・成果	測定結果	評価
⑤	ケアマネジャーからのサービスへの信頼性が向上する	<p><良好な結果></p> <ul style="list-style-type: none"> RBを他の潜在利用者へ紹介したい：約80%。 RBの運動プログラムは効果的だと思う：約86% お客様見学時のスタッフの対応は良い：約81% <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーが信頼する事業所の要件としてスタッフの質や対応、職員の入れ替わりが少ない、連携がしやすいといったものが多い。一部を満たせていないものの、全般的にRBはこれら要件を満たせている。 	○

*今回は新たなデータ取得が必要なものについて実施。既存データの活用も今後考えられる。

- 測定結果を踏まえ、以下の改善・更なる向上のための施策を実施する。

関係者の変化・成果	指標測定結果の解釈	改善・更なる向上のための施策案
<p>【利用者】 サービスに満足する</p>	<p>RB以外の社会参加を促す効果は限定的であることが確認された。</p> <p>運動による身体の健康の満足度が高い一方で、心・脳の健康については相対的に低い結果となった。どのようなプログラム構成が、より利用者の心と脳の健康増進に寄与するか、再考する必要がある。また、加齢による指標数値の増加率は女性が相対的に男性より低い傾向にある。</p>	<p>【ニーズ調査の検討】 そもそもRB以外の社会参加が、利用者のニーズに合っていることなのかを調査・検討する。そのうえで必要であれば、RB事業内外でできることを検討・実施する。</p> <p>【心と脳の健康に関するプログラムの改善検討】 性差を踏まえたうえで、RB利用者の心と脳の健康が改善・維持するプログラム内容の検討・実施と検証を行う。</p>
<p>【事業者】 従業員のモチベーション・スキルが向上する</p>	<p>「これからもこの仕事を続けたいと思う」という項目の数値が低い原因として、従業員の中で、仕事を通じて新しい知識・能力の獲得や、成長している感覚が得られていないことが大きいと考えられる。</p>	<p>【参加型会議の開催、達成度の可視化】 参加型の会議等で従業員とRBのビジョンを共有することで、現場の従業員が納得感をもって働くことができると考えられる。そのうえで必要な知識やスキルを体系化し、ビジョン達成のために重要な目標値を設定することが可能となる。</p>
<p>【ケアマネジャー】 ケアマネジャーからのサービスへの信頼性が向上する</p>	<p>多くのケアマネジャーからプログラムやスタッフの質・対応について評価されており、利用者にRBを紹介したいとしている。一方、職員とケアマネジャー間の情報共有や連携には課題が見られており、この点において更なる改善が期待される。</p>	<p>【ケアマネジャーとのコミュニケーション改善策策定】 ケアマネジャーへの報告体制や情報共有については十分になされていないケースに対し、いつ・どのような状況で・どのようにケアマネジャーへ情報共有するか、行動計画やマニュアルを策定・改善する。</p>

リエゾンワークス社の
ビジネスを通じた社会的価値の創出

本レポートは、リエゾンワークス社の事業であるコンビニエコレジ袋広告事業について、社会的インパクト・マネジメントの手法を用い、特にSDGs達成貢献の観点からビジネスを通じた社会的価値創出のシナリオ・現状・課題を分析し、今後に向けた施策を検討したものです。

目次

本編

サマリー

1. 対象事業の概要
2. 社会的インパクト・マネジメント実施の目的
3. SDGs達成への貢献シナリオ
4. 価値創出力を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

添付

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果

社会的インパクト・マネジメントの対象事業について

対象事業
→ P44参照

【コンビニエコレジ袋広告事業】
コンビニFC店舗へのエコレジ袋無償提供。
レジ袋に広告チラシを封入する（広告収入を得る）ことで、無償提供を可能にする

事業目標
→ P44, P46参照

事業で利益を生み、以下の2つの実現を目指す：

- 福祉作業所への作業依頼を通じた利用者の生活の質向上
- 温室効果ガス排出量の削減

関連SDGs
→ P47参照



検証事項
→ P46参照

【福祉作業所・利用者】

- 福祉作業所・利用者に入収入の安定や作業技術の向上、社会参加の実感をもたらしているか

 【環境】

- 温室効果ガス削減にどの程度貢献しているか
- コンビニ来店者の環境意識が向上しているか

 【大手コンビニ】

- FC店舗と本部との関係性改善に寄与しているか
- FC店舗の経営コスト削減に貢献しているか

検証結果と改善案

検証結果概要
→ P48-51参照


データ収集困難であったが、取得した一部データとヒアリングにより以下の点が明らかになった：

- 【福祉作業所・利用者】 <データ未収集>
 - 継続的な作業依頼による安定した運営への貢献可能性
 - 事業運営によっては福祉作業所を圧迫してしまうリスクがある
- 【環境】 <一部データ未収集>
 - エコレジ袋による温室効果ガス削減効果ありという試算
 - 広告紙利用による温室効果ガス排出量の検討
- 【大手コンビニ】 <一部データ未収集>
 - エコレジ袋配布枚数分のFC店舗経営コストの削減効果

改善案
→ P52参照

- 【負の影響への配慮】
 - 福祉作業所やその利用者に負の影響を及ぼさないか常に意識し事業運営する必要性
 - 広告紙は次年度よりすべて再生紙に変更
- 【必要なデータ収集の必要性】
 - 上述について適格に把握・対応するためのデータ収集の実施

1 対象事業の概要

組織名	株式会社リエゾンワークス
事業名	コンビニエコレジ袋広告事業（本事業で用いるエコレジ袋はバイオマスプラスチック30%配合のレジ袋）
事業概要	コンビニでのエコレジ袋の無償提供。レジ袋に広告チラシを封入する（広告収入を得る）ことで、無償提供を可能にする。封入作業は、自治体と連携し福祉作業所に依頼。2019年度は年3回の計450万枚の配布を実施。
事業が取り組む社会的課題	<ul style="list-style-type: none"> 福祉作業所利用者の収入安定化と、生活の質の維持・向上 プラスチック製のレジ袋利用による温室効果ガス排出の削減 
リエゾンワークス社の強み	<ul style="list-style-type: none"> コンビニ広告のノウハウ 自治体や福祉作業所との連携ノウハウ 顧客が大手コンビニ

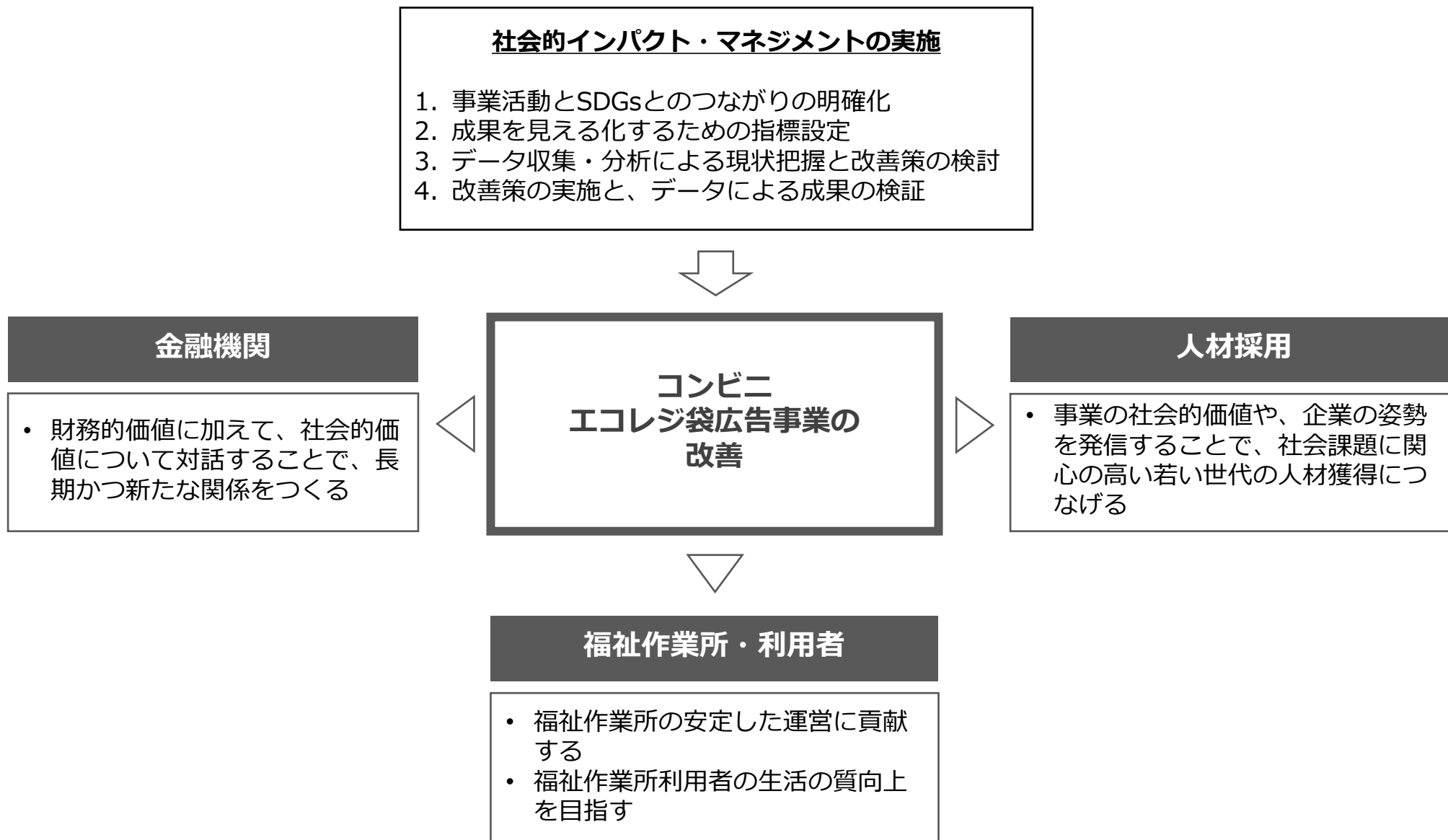
■コンビニでのエコ（バイオマス）レジ袋無償提供×自治体との連携によるSDGsへの取り組み



- ### 事業関係者
- 福祉作業所…◎
 - 福祉作業所の利用者
 - 広告主
 - 大手コンビニ本部
 - 大手コンビニFC加盟店
- ◎…主たる受益者

2 社会的インパクト・マネジメント実施の目的

- 以下に示す目的を達成するために、社会的インパクト・マネジメントを通じたコンビニエコレジ袋広告事業の事業改善を行う。

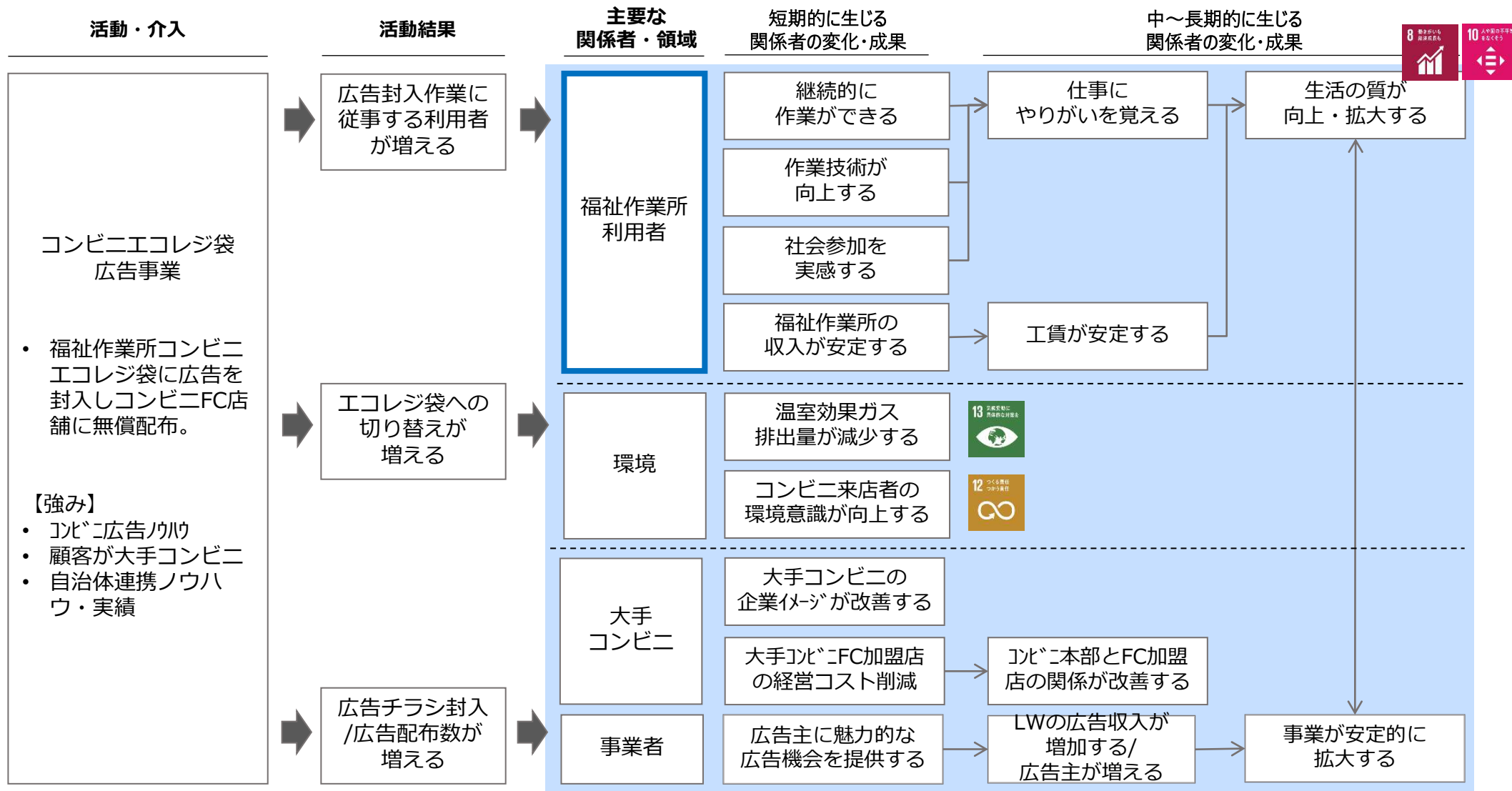


3 SDGs達成貢献へのシナリオ

事業目標

事業で利益を生み、以下の2つの実現を目指す：






- ①福祉作業所への作業依頼を通じた利用者の生活の質向上、②温室効果ガス排出量の削減



 : 特にコミットを目指す関係者・領域

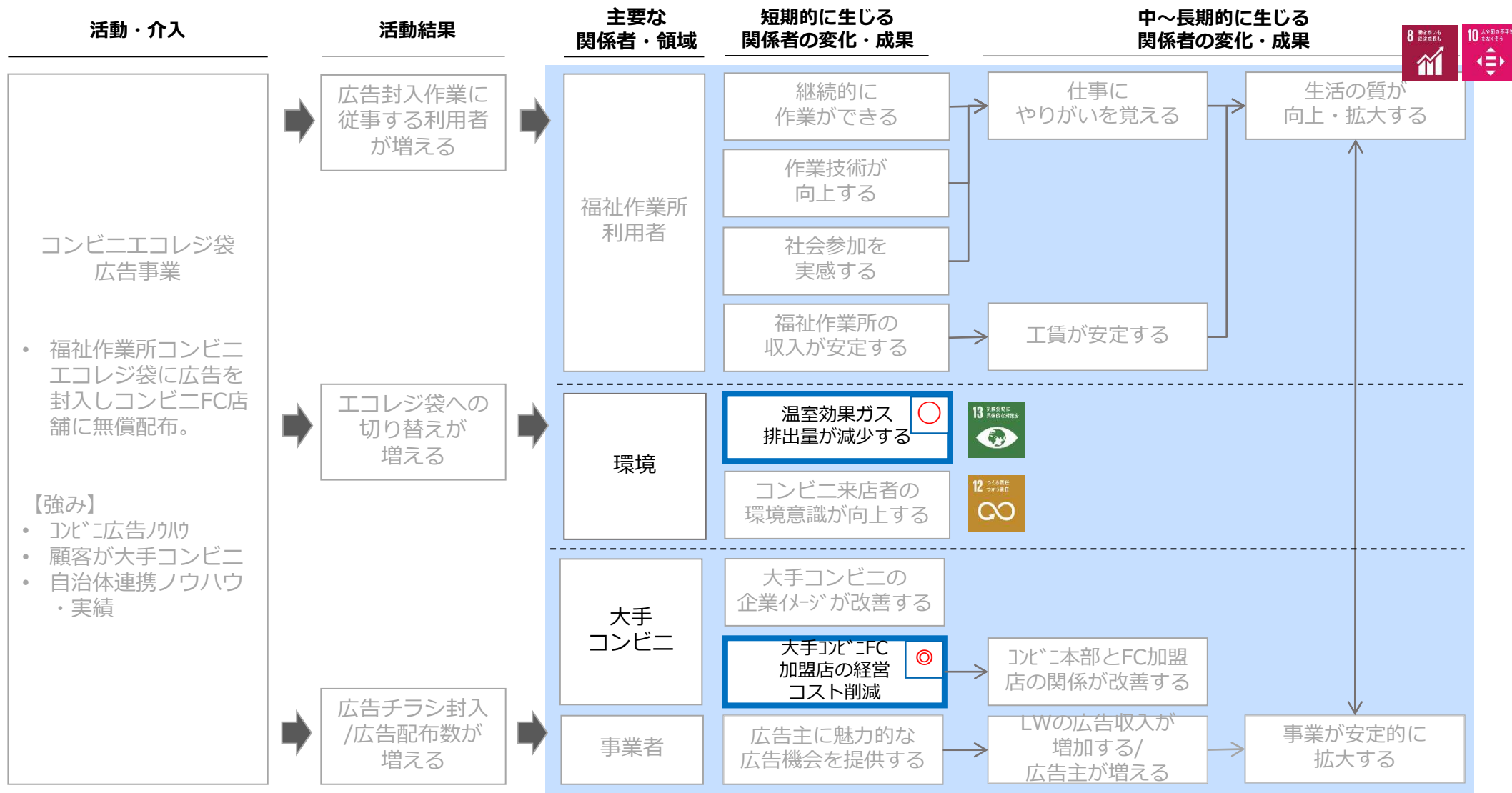
3 SDGs達成貢献へのシナリオ

- 本事業がSDGsターゲットに対して与える正・負の影響とその理由を一覧にした。

紐づけたSDGsターゲット		正の影響	負の影響	ターゲット紐づきの解釈と理由
	2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の 能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含 を促進する。(10.2)	✓	✓	福祉作業所の利用者の経済的・社会的な包含に関わる。ただし、依頼料の設定によっては、福祉作業所やその利用者に期待する効果をもたらさない可能性がある。
	2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び 働きがいのある人間らしい仕事 、並びに同一労働同一賃金を達成する(8.5)	✓	✓	同一賃金・同一労働は難しいものの、福祉作業所利用者への働きがいのある仕事創出に関連している。ただし、依頼料や工賃の設定によっては、福祉作業所やその利用者に期待する効果をもたらさない可能性がある。
	該当ターゲットなし (本ゴールには温室効果ガスを民間事業者が削減することに関わる具体的なターゲットがない)	✓	✓	バイオマスレジ袋の利用により、温室効果ガスの削減に貢献する可能性がある。一方、広告紙利用による温室効果ガス排出も考えられる。
	2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地、および乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系およびそれらのサービスの保全、回復、および持続可能な利用を確保する。(15.1)	—	✓	エコレジ袋内にチラシを封入していることから、事業の拡大とともに森林環境への悪影響リスクがある。
	2030年までに、人々があらゆる場所において、 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識 を持つようになる。(12.8)	✓	—	FC加盟店がエコレジ袋を導入することにより店舗レベルでの意識啓発に繋がる可能性がある。

✓…該当 —…非該当

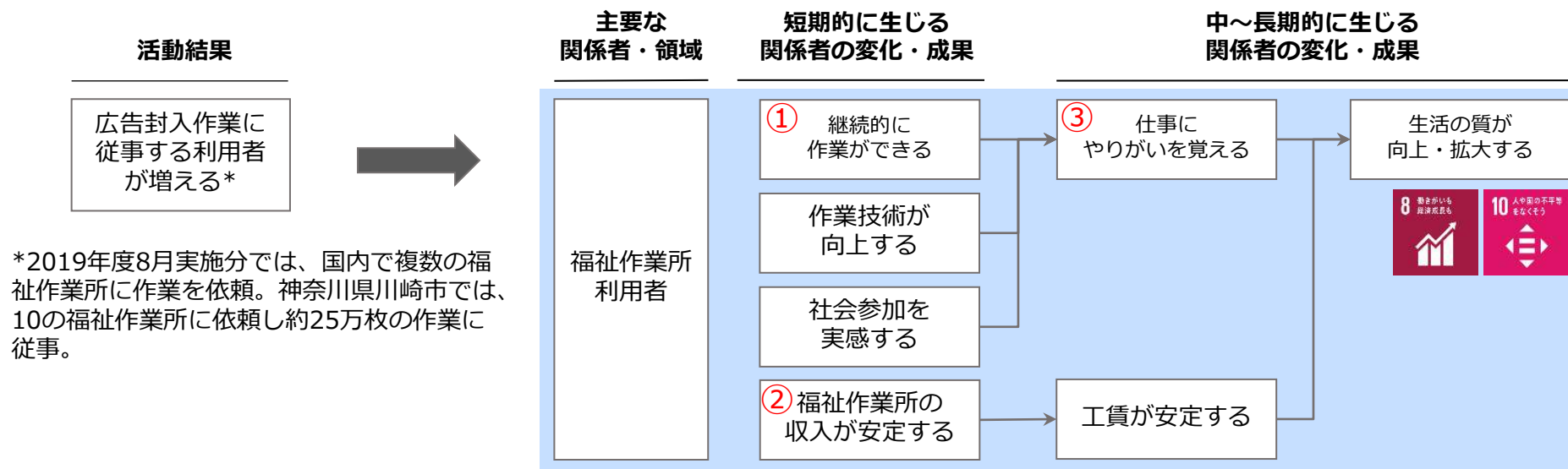
3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証（まとめ）



検証対象項目内の判定に関する凡例
 ◎：良好な結果であり、特段の課題はない。更なる成果の増大が期待される。
 ○：概ね良好な結果だが、一部に課題が見られる。改善策の検討・実施を要する。
 △：大きな課題がある。早急に改善する必要がある。

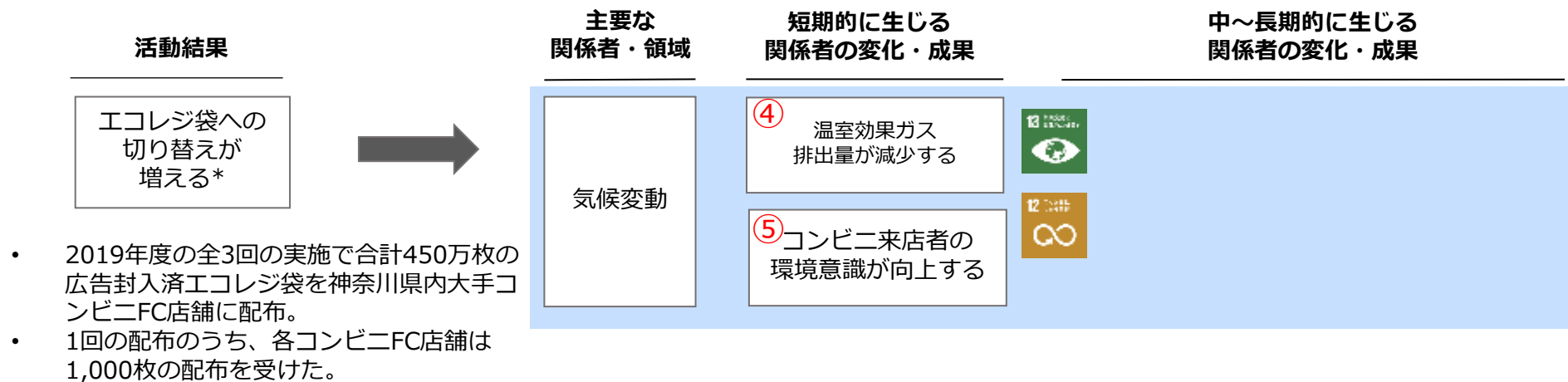
 検証可能だった項目

- 福祉作業所利用者に関する変化・成果に関するデータは未収集。
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定する必要がある。



	測定する変化・成果	測定結果	評価
①	継続的に作業ができる	・ —	—
②	福祉作業所の収入が安定する	・ —	—
③	仕事にやりがいを感じる	・ —	—

- コンビニ来店者の環境意識に関するデータは未収集。
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定する必要がある。



測定する変化・成果	測定結果	評価	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30px; margin: 0 auto;">④</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 温室効果ガス排出量が減少する </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • エコレジ袋への切り替えによるCO₂削減効果は14.88(t-CO₂)と試算される* • ただし、広告紙ライフサイクルにおける温室効果ガス排出量の検討が必要。 </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">○</div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30px; margin: 0 auto;">⑤</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンビニ来店者の環境意識が向上する </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • — </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">—</div>

判定に関する凡例

◎：数値として良好な結果であり、更に成果を増大させる施策や働きかけが期待される

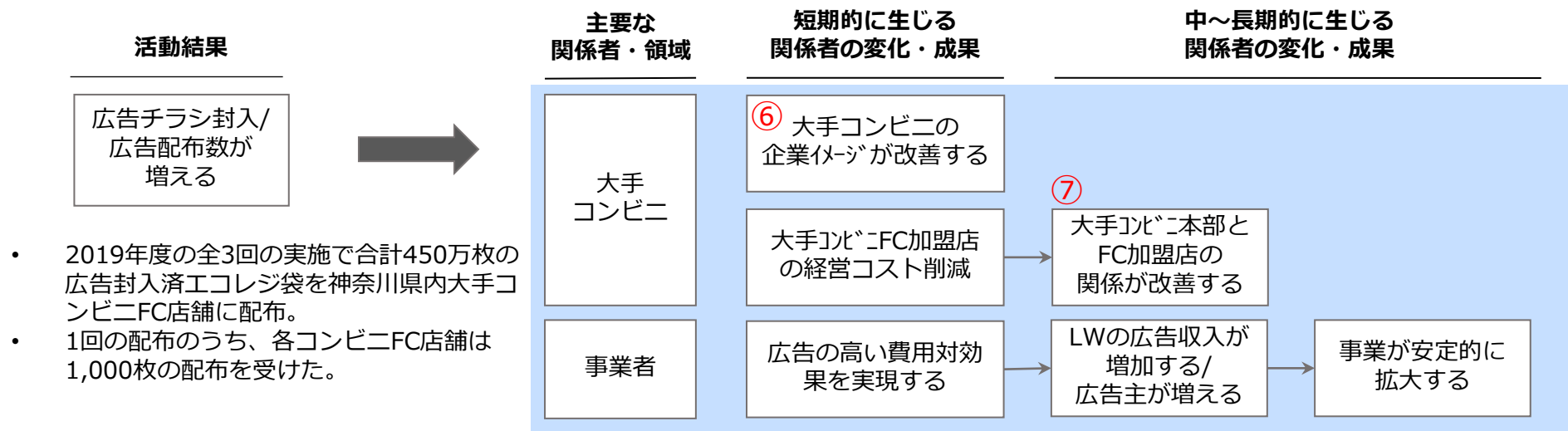
○：良い結果もみられるが、一部に課題があり改善策を検討し実施する必要がある

△：大きな課題が見つかり、早急に改善する必要がある

* 以下に基づきケースリー試算

- 環境省. 2008. 『エコ・アクション・ポイントの二酸化炭素削減効果の算出手法例』
- 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部. 2009. 『廃棄物分野の温室効果ガス排出係数正確化に関する調査業務報告書』

- 大手コンビニに関する変化や成果に関するデータは未収集。
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定する必要がある。



測定する変化・成果	測定結果	評価
⑥ 大手コンビニFC加盟店の経営コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> • コンビニエコレジ袋450万枚が無償配布を受けることから、従来のレジ袋450万枚分の仕入れコストが削減される。 	◎
⑦ 大手コンビニ本部とFC加盟店の関係が改善する	<ul style="list-style-type: none"> • — 	—

判定に関する凡例
 ◎：数値として良好な結果であり、更に成果を増大させる施策や働きかけが期待される
 ○：良い結果もみられるが、一部に課題があり改善策を検討し実施する必要がある
 △：大きな課題が見つかり、早急に改善する必要がある

4 SDGsへの貢献を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

- 関係者の変化や成果に関するデータは様々な制約により収集できなかった。
- 今後は、計画や体制を整え変化や成果に関するデータの収集から取り組む必要がある。
- 事業活動の結果データと実施したヒアリングから得られた教訓を以下にまとめる。

課題	学び	今後の施策案
負の影響への配慮	<p>【福祉作業所へのヒアリングに基づく学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 定期的に作業が発生することは福祉作業所の安定した運営の一助となるものの、依頼料が十分でないで却って運営を圧迫するリスクもある。 • 福祉作業所利用者は広告封入されたレジ袋が利用されている店舗へ足を運ぶこともあり、そこで「やりがい」を感じているかもしれない。 <p>【温室効果ガス排出量削減効果試算からの学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> • エコレジ袋への切り替えによる温室効果ガス削減効果は見込まれる。 • 広告紙利用による森林伐採や紙ライフサイクル中の温室効果ガス排出も考えられる。広告紙については、紙の原料や生産過程、3R取り組み等により数値が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本来貢献すべきステークホルダーである福祉作業所にリスクを及ぼしていないことを確認するためにも、実現可能性を加味しつつ、データの収集を進める。 • 収集したデータを踏まえ、ヒアリング内容や未検証のシナリオを検証していく。 • 広告紙に利用している紙の種類や生産過程を確認し、紙ライフサイクル全体から排出される温室効果ガスを把握する。それに基づき、利用する広告紙から排出される温室効果ガスを最小化する施策を検討する。 • 次年度から事業に用いる広告紙をすべて再生紙とする。
データ収集	<ul style="list-style-type: none"> • データ収集のためには、ステークホルダーデータからの協力が不可欠で、今回は取得が困難であった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 事業の主要関係者と議論をし、データ収集のための体制を可能な範囲で構築する。 • 定量的なデータのみならず、ヒアリング等を通じてモニタリング可能な方法を検討する必要がある。